

社団法人日本外洋航海協会

平成2年9月15日発行(前号9月15日発行)

昭和52年7月25日第1種郵便物認可 定価300円

Offshore¹⁹⁹⁰ 8/9

No.184



'90 KENWOOD CUP

HAWAII INTERNATIONAL OCEAN RACING SERIES

日本ブルーチーム優勝!!

今年8月、ハワイで開催された'90 KENWOOD CUPには世界各国から46艇が参加。なかでも、18艇を送り込んだ日本勢は大いに気を吐き、日本ブルーチーム(WILL, TIGER, SWING)が世界4大レースの1つと称されるこのレースで優勝。日本で初めてCUPを獲得。また、艇別成績においては、ニュージーランドがチャーターした日本艇、MATENROWが勝利をものにした。



最終のロング・オフショア、カウラレースにて



- ①上マークにアプローチする
MATENROWとPROPAGANDA
- ②SWINGのサイドマーク回航
- ③第2レース、クラスEのスタート
- ④ヤシの木陰の向こうに熱い
戦いが展開する
- ⑤50フッターのスピラン
- ⑥ハワイヨットクラブのボン
ツーンにて

協力・機ケンウツ
写真提供
機ケン社
添畑 薫
左頁、①、⑥

①		②
	③	
④	⑥	⑤



パ 羽 鳥 回 31

レースを終わって

レース委員長 宮坂敏三

昨年は台風の余波もあってAコース、Bコース合わせてフィニッシュしたのは66艇であったが、今年はエントリー176艇、スタートは165艇であった。

内訳はAコースのIOR/JOR=54, IMS=9, BコースのIOR/JOR=8, CR=93, オープン参加のカタマラン=1であった。リタイアはマストの切断による1艇を含み13艇であった。

『鳥羽レース』らしいスピランはなかったものの適当な風もあり、Aコースの“プリマ”が7月28日15時51分46秒にファーストフィニッシュしおよそ24時間フィニッシュカウントの作業が続き、7月29日17時8分40秒にAコースの“サンビー

ムII”がフィニッシュしてレースを終了した。

大きなトラブルもなく終了出来たのはスタート担当の東海支部、受入れ側の関東支部の関係者、各団体の協力が得られたからであり深く感謝している。又、今年は初めての試みとして途中の駿河湾支部にも協力を依頼し、浜名湖の新居御前崎港にコミティのブランチを設置してもらった。昨年のトラブルの反省から、協会内での情報の収集、リタイア艇の掌握が主な仕事であったが、レース展開の情報が速やかに入り、本部としては非常に助けられ、感謝している。来年からもこのシステムを継続して行きたいと考えている。

スタートをAコース、Bコースに分けた

のも今年が初めてであった。150艇を越えたフリートの場合、同時スタートには技術的にも、安全面からいっても限界に来ていると判断したからである。幸い会員からも賛同をいただき、これでよかったと考えている。参加艇が多くなるにつれて運営も段々難しくなるのは覚悟しているものの、参加者側にも理解と協力をより一層お願いせざるを得ないと考えている。

スタート以前の問題としては受付、艇長会議であるが、各艇が事前に準備し、時間を守ればトラブルは無いはずである。書類上の事はすべて解決してからスタートラインにつくべきであり、参加者のマナーとして運営側に協力を願いたい。

コースについてはAコースはIOR/JOR及びIMSとし、BコースはCRのみとしたらどうかという意見もある。もっと



Bクラススタート

ー ル レ ー ス

もな意見であるが最近ではレースも多様化しておりクラブのレースである以上、最終的には会員が選んで決めるべきであると考えている。実行委員会としてはこうした会員の意見をアンテナを高くしてとり込んで行きたいと考えている。

今年のフィニッシュは昨年に続き城ヶ島とした。三浦市のサーフ'90の協力もあり泊地としては難もあったが、将来の事を考えると必要なステップであると考えている。

小網代沖の定置網の事を考えると、特に

鳥羽側レポート

東海支部広報委員会 河内道夫

その時鳥羽の海は、我々の待ちこがれていた『マリン・リゾート』に変身し、国際リゾートとして姿を現した様に思われた。

鳥羽・佐田浜の泊地をテンダーで一回りしてみてもどろいた。大型艇がいっぱいで、まるで外国の泊地にいる様な雰囲気だった。

“プリマ” “ロシナンテ” “オパビニア” “ヒカリ” “ブラックシープ” “ラビアンローズ” 等、外国船籍の艇も見られる様に、まさに大型化の一途をたどっていることを顕著に示していた。

昨年、台風の影響を受け佐田浜の泊地では、湾の西側、本部前の船のアンカーが流れ、移動したりアンカーを入れ直したり大変でした。

今年は、昨年よりさらに参加艇が増え、また、旧国民宿舎『あらみ荘』のポンツーンほかが一括使えないなど、泊地の確保に奔走した。鳥羽市の協力により、泊地にマーク・ブイを入れたこと、テンダー・サービスを実施したことにより、少しでも参加艇の皆さんに喜んでいただけたでしょうか。

来年、さらに参加艇が増えることが予想されること、およびいつでも誰でもヨットで鳥羽を訪れることができることがこれからの海洋観光都市としては必要不可欠であり、安心して留められる恒久的なポンツーンの設置等を要望したい。

一方、利用する側としては、迷惑をかけることを基本にモラルを持った行動が望まれる。

遠方からの参加艇には親切的なフィニッシュラインが引けたと考えている。

今年の反省点の一つとしては始めて参加する艇に対し、ルールの解説をしてあげた方が良いということである。このレースの性格上新しい人も多いと思うので来年からはルール委員会の協力を得ながら、ぜひ実現したいと考えている。

成績は別載の通りであるが、来年も会員と一体となった楽しく、中味の濃いレースになるよう努力したいと思っている。

前夜祭のパーティは、昨年は着席によるオーナーズパーティを実施し、全体としては好評であったと認識していた。今年は、参加艇数が増えたことと出席者相互のコミュニケーションをさらに図れるように、実行委員会で論争の末、立食形式とした。

来賓の方のあいさつの中でも若干雰囲気が違う（さわがしい）との指摘を受けました。

担当者は、立食形式といえば「すぐに食べるものが無くなってしまふ」との声の出ないよう努力したつもりでしたがいかがでしたか、ご批判を頂きたいものです。

パーティでは参加者の皆様に賞を差し上げましたが、ちなみに主なものに次を示します。

最 年 長 者：80才 “マーサ” 平田氏
最 遠 艇：西 “パイドパイパー”
東 “ヒポクラテス”

女性オーナー：“ダンスオブマジック”

最 多 出 場：“フジIII” “ビンド7”

翌朝、鳥羽の老人が「私も昔ヨットに乗っておりました。私たちの頃はセールは綿で、濡れると重くて大変でした。まして今の様なカラフルなの（スピン）など無かった。今は年を取って乗れないが昔を思い出します」となつかしうに話しかけてこられたが、「前夜のパーティで80才の方がまだ現役でしたよ」と話すと、「私も80才です。そうですか」と驚かれていた。

鳥羽に集まった165艇のヨットの群れは、この老人の心を大いに掻き立てたに違いありません。

ヨットはいつまでも続けられるスポーツ



“ブラックシープ”、“ロシナンテ”の外国船籍大型艇団
(撮影/東海支部広報委員会 左ページ写真とも)

であり、いつまでも続けたいものですね、それにいつまでも気持ちを若く保ってくれるものようです。

鳥羽のおじいさんもまだまだ乗れますよ、お元気で。

レース当日は、鳥羽市および保安庁の要望と強力な指導により、整然と鳥羽港内を機帆走で通過したが、鳥羽の市民や観光客はどう見てくれていたのでしょうか。

スタート海面は風が弱く、まして6年振りにスピンスターかと期待された風は、ここ数年と同様な東の上りとなった。Aコース約50艇が12:00にスタートしてもBコースの艇がスタートラインに集まってきても、まだ目の前にたむろしている有様、スタートの醍醐味の無い、まともに欠けたスタートとなった。

また、参加艇の増加に反し、観覧艇の参加者が少なすぎると感じた。参加艇の関係者がほとんどですが、何の解説もなく「たいくつの一言に尽きる、来年は乗らない」との声もあり、一つの課題である。

例年、規模の大きくなっていくヨットレースにおいて、受入れ態勢も充実して行かなければなりません。

今年の反省を踏まえて、来年に向けて次の手立てを考えていかなければなりません。参加者が増えるほど必要となってくるものは、すべての参加者がヨットマンとしてのモラルを持つことでしょう。地元としても大いに受け入れ、盛り上げてくれようとしている時期、オーナーの指導もさることながら個人個人の自覚を期待し、永遠なる『鳥羽パールレース』を希望したい。

『鳥羽パールレース』IOR優勝

“チャレンジャー”クルー 服部芳次

私がヨットを始めたのは、一昨年“チャレンジャー”の前身である“スーパールーシー”が『29回鳥羽パールレース』Bコース優勝した後でした。そして昨年5月、米国ネルソンマレック社が、ファーストの対抗艇として開発建造されたキャンペーンボートで、88年に『カナダカップ』、『ワントンワールド』等で素晴らしい成績を残したスペシャルボートに我々が乗船する事ができ大変幸せです。

我々もその期待に応えるべく未熟ですがガンバリ、『89年ジャパンビッグボート』、『コルムカップ』、『NTTエリカカップ』等のレースに参加しながらチューニングを重ねて来ました。『コルムカップ』以後に何とか80%位の出来映えのチューニングができ、まずまずの走りで行く今回のレースに望むことができました。

スタート当日、晴天、南東の風7~8ノットの中で何事もなくスタート出来るかと思っていた矢先に、スターボードランナーウインチが全く動かなくなり、スタート海面で一時間かけ解体修理を行い、スタート20分前となる。スタートは中間よりやや下側にてジャストスタートを切る。スタート直後は上側集団が先行し、“スリーパー”の下側についたが、伊良湖水道より逆潮約1ノットの為、艇速が伸びず下艇団に先行された。コースを変更し岸側に寄り下艇団のより下に入り先行された“ビンド”の下突破し、“アマトラ”の上側に付けた。夕刻での先行艇は、“プリマ”、“ロシナンテ”、“ドンキー”、“ラビアンローズ”、“カリニョ”、“ダンデライオン”の6艇であるが、北振れを信じ天竜河口まで他艇の沖出しを待ちながら突っ込む。15°北にシフト、この時点で、“ダンデライオン”は抜けた様だ。岸まで0.5マイルで沖に出し、“カリニョ”を掴めるべく夜にそなえワッチに入る。ワッチ体制は、ヘルムス2名で4時間ワッチ、クルーは3、3、2名で3/6ワッチ、3時間寝て6時間起きる。そうすれば常時、6、7名は起きている。その後風も徐々に北に振れポートタッカー本で神津島までのアーチを描きながら朝を迎えた。神津島南で下先行の艇が現れ、ポートで受ける。その差2艇身、“カリニョ”だ、さすがファースト「なめたらあかん」。その後、式根島の西に抜け“カリニョ”と走るが、相手は関西人や、「絡んだらあかん」と上側にて走るが潮目にはまり下先行される。大島

西にて約20艇身につめ、あくまで“カリニョ”の上側に出て三崎に向う。10艇身ほど上側だが、ブローのタイミングが異なり、下先行されたり上側先行したりを二、三回繰り返す。ナビゲーターより「フィニッシュタイムをお知らせします。フィニッシュ時刻1900時」……。今まで何回変更のあった事が、楽しいナビである。一路フィニッシュラインに向う。全員“カリニョ”より先にフィニッシュする為、各ポジションのトリムに専念する。フィニッシュラインが確認できた、ラインまで2マイル、“カリニョ”の位置からは2.5マイルほどありそう。少しづつではあるが先行している様だ。残り0.5マイルの所で、『関西の執念』が城ヶ島と三崎の間の吹き抜けのブローを呼び、先にフィニッシュされ、悔しさ一杯で4分後にフィニッシュ。クルー同士で、取り合えず労を犒らい三崎のまぐろレストランで食事を取る。

その後、コミッティの方より「現在では総合2位だけどハーフトンが入って来ると分からないね」と聞かされ、約3時間で三崎を後にし、一路清水港へ向かう。翌朝駿

艇上で祝杯をあげる“チャレンジャー”軍団(左)



31時間一所懸命走りました

“コルバッチIII” 浅野英武

香港・マニラ遠征におけるクラス優勝、『初島ダブルハンド』ファーストホームの余勢をかって2年振りの『鳥羽レース』参加となった。今回はNORCとして初のIMSの採用。IMSクラスの普及を自他ともに担う我が“コルバッチIII”としては願ってもない本格的国内レースのデビュー戦となった。

回航までの約3週間、艇の整備、リギン

河湾上で、テレホンサービスにて順位を確認するとナーナ、ナント、“チャレンジャー”総合優勝と聞き、ビックリ。「東海の執念」が「関西の執念」に勝った。全員歓喜し、あっと云う間に艇の缶ビールを全部飲み干してしまった。

午後2時に清水港に着き、“プリマ”のバースを失敬し名古屋へ向う時、フィニッシュ側のスタッフの方々もやっと解放された頃かなと思いました。レーススタッフのみなさん二昼夜に渡り大変お疲れさまでした。

その後、8月12日『駿河湾横断レース』に参加し総合優勝、クラス優勝させて頂きまして有難うございました。これから秋にかけてトレーニングに励み、艇のポテンシャルを100%引き出す様、クルー全員で頑張ります。



のチューニング、セールチェック、トレーニングなどまたたく間に時間が過ぎてしまった。クルー全員、今回のレースは完全優勝するしかないとの強い決意でトレーニングにも知らず知らずのうちに気合いがはいっていた。若手クルーのレースにかける熱意はすさまじく、「回航は自分達20代でやりますからオカキンやって下さい。本チャンまで体力温存しておいて下さい」と言われる始末だった。

IMSは神津回り。神津までのコースをどう引くか勝つためへのとりあえずの鍵となる。回航隊から潮流のレポートはもらっているもののラムラインの沖か岸かどちらを通るか艇長会議の席上でも決めかねていた。宿舎でのミーティング。後発クルーが特参した某所発表のここ一週間の潮流レポートを見るに至って決心がついた。

レポートには遠州灘沖から強い潮が天竜河口近くまで北上し、そこから時計回りの潮が沖に出て駿河湾沖合で分岐し、一本は神津の西方、もう一本は大島西への本船航路まで流れていることが記されていた。潮は強いところで2.5ktから3ktとのことだった。「岸コースしかないな」。加藤オーナーを含めた9名の見解は一致した。

スタートは中間のラインギリギリをねらった。VHFのオールフェアの声と同時にスターボクローズいっぱいコースをとり東に向かった。風はTRUEで14~16ktにあがって来たがヘビーとフルメン。我艇にとっては絶好のコンディションだ。ロラン・GPSのチェックによると追い潮2kt、対地7~8ktで快走する。周囲に“VIND”, “SLEEPER”, “青海波”, “PIED PIPER”, “GO KKO”など大型艇が見える。IMSではもちろんトップに位置する。天竜川河口沖に19:00到着、すかさずタック、沖出しをはかる。風強く20~22ktにもあがる。追い潮の影響か波がかなり悪く、ピッチングも激しくなる。夜半にはサバイバルになることも予想されるため思いきりよく一気にジブをNo.3にチェンジする。波にたたかれながらも43ftの巨体は戦車のような走り続ける。天竜近くまで一緒に走っていたIORのワントン、2トンもついに見えなくなり、暗やみの中の一人旅を続ける。風、波ともに状況は変わらず両サイドのデッキが水が走る。深夜、風が東に振れる。予想通りの展開となってくる。タックを返し伊豆方向に向う。プロッターとにらめっこ、神津までのレイラインに乗せるためのポイント探しとなる。午前3時、下振れがはいりタック、神津が射程になる。「オーイ、勝ちにいくぞ」「ガッテンです」。夜明け、ついに神津を視認する。08:30神津と恩馳の間を通過。前に“青海波”、沖に“SLEEPER”など他に3艇がいる。つかの間の波静かな海面。ブランケを嫌って沖出しをはかった“青海波”が右手で止まっている。我々はかまわず吹きおろしを期待し岸に突込む。風が後にまわり、気合十分なクルー達はスピンをセット、またたく間にスピンアップとなる。島かげからようやく脱出。

スピンドウンとジブNo.2をアップする。09:00神津島灯台0°。再び強いNEの海域にはいる。大外からまわった“SLEEPER”がフルスピードで前方に回り込みをはかる。夜間のセミサバイバル?をしのいだクルーも元気いっぱい、ビールの売れ行きも順調となる。加藤オーナーもオーナー席に陣取り「浅野、戦局はどうだ。勝っているか。まさかIMSが前を走っていることはないだろうな」と山本五十六ばりの元気さ。新島、式根を前にプロパーの左方向に出ることを決める。式根をかすめ、艇は快晴の中を順調に北上を続ける。風12~14kt。最短距離の利島、大島につかかけたいのだがこのコンディションではブランケが必至、伊豆と大島との間の強い北東流を利用しない手はないとあえて真中コースをとり、“青海波”と数時間のランデブー帆走を続ける。(あとの話だが、この時、大島にアプローチした艇団はすべてドツボだったそう)。後方にCRの上位艇があらわれはじめる。前方にもIORの大型艇のマストを視認。その後、風の振れを期待するがどうしても城ヶ島を指すことができずそのまま風なりで北上を続ける。

一度は大島につかかけないと上りきれないので風早を3時にみえるところまでタックをがまんすることにする。ようやくタック。

しかし大島に近づくにつれて反流の影響か、ずるずるとヘディングが元町方向に落ちていってしまう。たまたま返し。このままタック、タックではつらい。風も落ち気味だ。21:00頃FINISHかなとの声が出

る。14:00過ぎ「上振れ、上振れ」の声。城ヶ島オンコースとなる。

IMSのライバルは“ボンフリー”と“エスメラルダ”の2艇。計算では少なくとも2時間は離さなくては勝てない。約12マイル。勝っているとは思いつつもホントに大丈夫かなの思いがよぎる。負けたらオーナーになんと言われるか判らない。気を抜かないように丁寧に走るよう指示する。

18:00城ヶ島がはっきり見えてくる。風が落ちないことを祈るばかりだ。房総方向のIORがスピンを上げている。風が横にまわる気配。「スピン」の声でクルーがデッキを走る。0.50Zのスピンをあげてみたものの力がなく、早々にダウン、ジェノアに頼る。東方向のIORは“アマトラ”であることが判明、連中はギリギリまでスピンをあげている。

19:10フィニッシュラインへの最終アプローチ。栄光のゴールかな?。ここは加藤オーナーの出番だ。オーナーがニコニコ顔でラットを握る。19:20フォグホーンを聞く。所要31時間20分。作戦通りのコースを一所懸命9人で走り抜いたレースが終わった。

(あと書き)

おかげ様にてIMSの優勝を掌中に収めることが出来ました。これまでの走りがブロックでないことを証明することが出来、大変うれしく思っています。コース取りがうまくいったこと。それと勝とうという全員の執念。この2つが勝因です。これからも頑張っていきたいと思います。レースコミティはじめ、関係各位の皆様に御礼申し上げます。



加藤オーナーを中心に“コルバッチ”クルー

“パイドパイパーA”の珍道中

布田 康人

やって来ました『鳥羽パールレース』。「いちばん遠くから来たから書け」との事でウスキーをナメながら書いています。

思えば、遠くに来たものだ。“パイドパイパーA”は、去年の6月、安サラーマンの僕がサンフランシスコで購入したXの1トンです。辞表を懐に、仲間と『ハワイ—広島レース』に参加。メンドクサイので、輸入し、船籍を取りました。が、これ

又お役所相手なのでメンドクサかった。

5隻目の船ですが40フィートにもなると一人では無理で、アツミの村中さんに共同オーナーになってもらい（“パイドパイパーA”のAはアツミのAなのです）、ソレッチャグループも参加して出来たのが現在の“パイドパイパーA”なのです。

エンジンは購入した時からトラブル続きで今も調子が悪いのですが、クルーも調子が悪い。クルーも社会人になってヨットを

始めた連中ばかりですし、船は急に大きくなってしまったし、なによりも周防灘の徳山で一隻で練習しては、調子が出ないのも当然です。

ヨッシャ、今年はグワンバルジャンと、1月の伊予灘に始まって、大阪の『コルム』、木場の『舵杯』、洲本の『オレンジカップ』と遠くに船を持っていきました。が、おかげで練習は出来ず、レース本番が練習といった有様。

クルーも家庭や仕事の都合で、来たり来なかったり。ドン吹きの『オレンジカップ』もたったの5人でレースをする始末。練習にもなっていないんじゃないかな。

それでもコリないのが“パイドパイパーA”，これ以上悪くなり様がないので、気は楽です。楽になったついでに、次は『鳥羽パールレース』だ。帰日には『徳島レース』と『阿波踊りレース』の豪華3本立て。『阿波踊り』は楽しいので、いつもは怖い女房連中も目を輝かせています、キラキラ。金は無いけど、知恵があるのが、“パイドパイパーA”。

そうと決まったら、やる事は早い。7月7日、下松の長浦造船所で、潮が引き始めていたのもなんのその。エンジンをフルスロットルにして船台にしがみついてそのまま上架、ヤレヤレ。

とにかく鳥羽まで船を持って行くのが最優先。船底なんかには目もくれず、エンジンとシャフトを夜毎に修理しています。僕



ハワイを出発する“パイドパイパーA”

自作艇で『鳥羽レース』に初参加

“弥勒—I” 太田 宏

私たち、弥勒（ミロク）グループは、現在、茨城県土浦市にある霞ヶ浦ヨットハーバーを中心に活動しています。霞ヶ浦ヨットハーバーにはアドニスヨットクラブという発足20年を迎えるヨットクラブがあり、

そのクラブ仲間の中から生まれたグループです。

そのアドニスヨットクラブのクラブ艇、アドニスJr（U-23）の製作で実績のある伊藤猛氏を中心に、いろいろな人の協力で作出来上がった自作艇が、今回『鳥羽パール

レース』に初参加した、“弥勒—I”（U-30）です。

本年（90年）の3月18日には、設計者の歌田道教氏を迎えて盛大に進水式を行うことが出来ましたが、この時内装は殆んどなく、エンジンもむきだしのままでしたので、レースどころか宴会さえも出来る状態



こうして“弥勒”は出来上がった！

は機械が不得手なので、もっぱら声援を送るだけです。絶妙のチームワークです。次の日曜日、若くして死んだ、仲間の太矢さんの遺骨を笠戸の沖に沈めて、岩田に回航、太矢さんも当然船上にいるはずの人だったのだが……。

次の土曜日、会社が終わって一目散に岩田へ。午後9時岩田を出航、人夫頭の藤井君、(僕も、実は人夫のひとりなのです)だまされて乗せられてヨットは2ヶ月、4回目の仲子君と僕の3人。メインを上げて、瀬戸内海を東へ、備讃瀬戸ではエンジンはオーバーヒートするし、バッテリーは沸騰してパーになるし。それでも神様は我々を見捨てず、鳴門海峡では風は吹くし、潮は追い潮で、モー最高。

ロランはパーで、おまけにスピードメーターもパー。盲目で紀伊半島を回って、7月22日、鳥羽に入港。重たいアンカーを3回も入れ直して、なんとか係留しました。

迎えに来た村中さんの車で11時間掛かって徳山へ。遠征はもっぱら船か車、新幹線なんか使えません。安く上げるのが“パイドパイパー”流なのです。

7月26日、仕事を片付けて一目散、金、土曜とサボるので、言い訳を考えながら、マイクロバスで9人がドンチャン騒ぎ。これだから“パイドパイパー”は面白い。貧乏はリッチに通じる。10時間飲んだくれて朝5時、鳥羽着。船には昨日から岡田豪三君ら3人が泊まっていました。岡田君は

学習院ヨット部の同級生、東京での説明会にいらつたり、我々の知らない、鳥羽から東のことはおまかせ。

フラフラしながら出航。スタートは上有利。上側から余裕を持ってジャストスタート、しばらくはワキ目もふらずヘルムを取る。下前方には大型艇が2隻いるだけ、30分もすると、ホッとしてビールを飲む。船は快調に滑っているし、ビールはふんだんにあるし言う事なし。

夜になって、東の風は強まり、夜半No.3にチェンジ、実はNo.2は延びきって使いものにならないのです。

前夜のドンチャン騒ぎと寝不足で船酔いが相次ぎ、キャビンの中は常時5~6人がゴロゴロ、ゲロゲロ、ロランもスピードメーターもクルーもパー。まったく寝ないでレースをするのは岡田君だひとり。申し訳ないと思いながらも睡魔には勝てず、身体は横になってしまうのです。

早朝ピタシカンカンで神津をクリア。明るくなるというはいるは、あっちにもこっちにもセールが見える。式根をかわして“ダンデライオン”とミーティング、彼等はジェノアで11人がフルハイク、こっちはNo.3でデッキの上には5人が寝そべっていて他は船内でゴロゴロ、これでは勝ち目はない、ドンドン引き離されて、日も暮れて、なんとかフィニッシュ、楽しかった『鳥羽レース』。

フィニッシュ後、船は徳山へ津田さん、

長浦さん達でそのままトンボ返り。我々は迎えに来たマイクロバスで、新婚時代を過ごした葉山をなつかしい思いで、湘南の変わり様にビックリしながら一路徳山へ。

8月11日、いよいよフィナーレの『阿波踊り』、津田さん自作の36フィートケッチとマイクロバスとバイクに分乗して、女、子供総勢18人。『徳島レース』、『阿波踊りレース』、共に『鳥羽パールレース』の教訓を生かし、ビールなして真面目に走って、2着でフィニッシュ。

夜の阿波はメチャコ楽しい。大いに楽しんで、翌朝早く徳島を出航、鳴門を過ぎて、備讃瀬戸を抜ける頃、日は傾いて、久し振りに乗った女房が目を輝かしている。キラキラ。

宮の窪を過ぎる頃、空も白み始め、いよいよエンジンの調子も悪くなって来た。伴走している津田さんの“鳶”は機走で10ノットは出るのに、我々に合わせてトロトロ走っているが、我々は岩国へ入るので、徳山迄帰る“鳶”に野間君親子に乗ってもらい、先に行ってもらった。“鳶”が小さくなって見えなくなると、ついにエンジンがストップ。

ノンビリと女房ともう一組の若いアベックと静かな海面を音も無く滑る様に船は走っていく。デッキに寝そべって、こんなハプニングも良いものだ。夕方、風の強くなった頃、岩田へ入港。

ではないと思っていましたが、盛り上がった勢いで、『鳥羽パールレース』へのエントリーを発表してしまい、それが新聞各紙の地方版に載ってしまったものですから大変でした。つくづく酒の恐ろしさを見た思いがします。

しかし、本当に大変なのは、これからでした。船検を取り、エンジンカバー・ギヤレー・ヘッド・航海機器・バース等を取り付け、備品を買い揃え、保険にも入りました。やっとレースに参加出来る状態になったのは、レース1週間位前でした。そして回航となるのですが、私たちは時間と人員の関係で陸送しなければならなかったもので、今度は、せっかく作り上げたものを再び取り外すことになりました。日本の道路(含高速道路)には、高さ制限があるらしいのです。最初はマストだけだと軽く考えていたのですが、最終的には、バルピット・スタンション・ウインチ(2ヶ)まで外しました。レースまでに又、取り付けることを考えると本当に嫌な作業でした。なんとかならないものでしょうか。

陸送で、愛知県蒲郡のヨットハーバーまで運んでもらい、そこで霞ヶ浦ヨットハーバーで行った作業の逆の作業をし、いろいろと調整しながら鳥羽へ回航しました。ビール無しではいられない暑さでしたが、景色は最高でした。

レースに関しては、順位表を見ればおのずと想像が付くと思いますので書きませんが、表彰式には出なかったです。そのころ私たちは、城ヶ島大橋を見ながら、ビールも無くカレーライスをヤケで食べていました。風の吹くのを待ちながら……。

フィニッシュ後、レース本部から頂いたビールは、本当に旨かったです。ありがとうございました。

次の日、早朝、三崎港を出航しました。今度は千葉県浦安のヨットハーバーへ向けてです。そして到着後、例によって又、マスト・バルピット・スタンション・ウインチ(2ヶ)を取り外して陸送で霞ヶ浦ヨットハーバーへ運び、とりあえず、その日はそのまま解散。次の日曜日に、又それらを全部取り付けました。

これで私たちの『鳥羽パールレース』のすべての予定は、やっと終了しました。

いろいろな事があり大変でしたが、来年又、参加したいと思っています。

なお最後になりましたが、『鳥羽パールレース』すべての関係者に御礼申し上げます。

〈資料〉

総日数 10日

総人数 11名 伊藤猛・田口淳二・太田宏・中村勝三・関川陽子・蛭田栄・藤井正範・近藤洋史・朝枝輝夫・平沼栄・稲垣太浩

総予算 80万円 陸送費 約20万円

交通費 約20万円

宿泊費 約20万円

飲食費 約10万円

その他 約10万円

P. S 現在、私たちは、38フィートのヨットを計画中(自作)。よって共同オーナー・仲間を募集しています。興味のある方はご連絡下さい。0292-21-3962 太田まで

第31回『鳥羽パールレース』成績

IOR/JOR Aコース (風速10% 距離180M) スタート 1990年7月27日 12時00分0秒 レース委員長 宮坂 敬三

クラス	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. ft	ペナルティ %	T.C.F	所要時間 H M S	修正時	到着順位	総合順位	クラス順位
II	4102	CHALLENGER	長谷川富延	N/M 40	30.45		0.8118	31 4 47	90829.9	5	1	I-II 1
II	3965	AMATORA	Y. 佐々木	BRIAN 40	30.55		0.8127	31 16 23	91496.2	7	2	I-II 2
II	4379	再見 II	高橋 伸博	YOK 30R	23.30		0.7427	34 15 24	91592.7	2 1	3	III-N 1
II	3660	青海波	清田 博一	X 1	31.04		0.8171	31 8 55	91625.5	6	4	I-II 3
II	3999	EMI	宝追 皓一	YOK-33	25.13		0.7612	33 26 17	91631.0	1 7	5	III-N 2
I	3519	LAVIEEN ROSE	沢野 裕治	FARR 45	35.05		0.8520	29 59 24	91985.3	3	6	
I	3215	DONKY V	収二	FARR 43	33.55		0.8392	30 36 38	92478.2	4	7	
II	3001	HALF TIME	田沼 英明	YOK 35	25.90		0.7689	33 38 29	93120.7	1 9	8	III-N 3
I	2210	CARERRA	渡辺 行彦	FAR-43	33.60		0.8396	31 33 8	95368.5	8	9	
II	3887	DANDE LION	望月 誠	TAKAI 40	30.39		0.8112	32 47 0	95737.8	1 1	10	
III	389	NADJA M	白崎謙太郎	TAK 39	29.00		0.7985	33 21 39	95899.1	1 6	1 1	4
III	355	SLEEPER	武部 喜一	N/M 42	32.64		0.8313	32 7 12	96124.9	1 0	1 2	8
II	2228	GOKKO Jr	奥田 昭二	YOK-39	30.56		0.8128	32 54 21	96285.1	1 3	1 3	9
II	4200	PIED PIPER A	布田 康人	X-1	30.31		0.8105	33 12 58	96918.0	1 5	1 4	10
II	3335	織姫	古川 保夫	FRE 41	31.49		0.8211	32 48 25	96976.0	1 2	1 5	11
II	4147	CHAR CHAN	木原 和喜	TAK 3/4	24.55		0.7554	36 3 27	98056.2	2 4	1 6	5
II	4128	UMIBOUZU	岡本 通	YAM-R33	24.60		0.7559	36 3 9	98107.5	2 3	1 7	6
II	3521	NACHI X	二村 昭治	YOK-41	31.37		0.8200	33 27 9	98751.8	1 8	1 8	12
II	3600	VIND-7	小林 義彦	TAK-42	32.36		0.8288	33 10 12	98968.7	1 4	1 9	13
II	3130	一寸法師	土手 秀三	Y-34R	24.36		0.7535	36 58 33	100300.6	2 6	2 0	7
II	3386	SUPER ESMERALDA	天野 則英	YOK-33SR	24.82		0.7581	36 57 48	100878.9	2 5	2 1	8
I	3339	風見鳥	榑 正寛	TAK-43	40.46		0.8960	31 42 27	102275.7	9	2 2	14
I	1978	SERENDIPITY V	中野 昭	YOK-33R	25.58		0.7657	37 33 44	103541.0	2 7	2 3	9
V	3103	AZIZA	佐藤 美紀	YAM-R30	22.90		0.7385	39 6 11	103959.4	3 0	2 4	V-VI 1
II	3355	雪風 V	斉藤 昌邦	YOK-40	30.12		0.8088	35 53 3	104483.2	2 2	2 5	15
II	2112	FUJI III	藤本 達雄	FRE-45	36.67		0.8655	33 49 40	105400.6	2 0	2 6	16
V	3827	CHOVE CHUVA	山本 秀紀	YOK-30S	22.88		0.7383	39 46 0	105695.0	3 1	2 7	V-VI 2
III	3035	MARTHA	平田 克己	WAG-34	25.88		0.7687	38 49 50	107456.6	2 9	2 8	10
III	3295	蒼海	佐藤 三三	YR-38	28.29		0.7918	37 57 34	108202.6	2 8	2 9	11
I	146	ROCINANTE	大口 真司	HOLLAND 67	68.36		1.0868	27 53 12	109106.0	2	3 0	17
II	3002	SYLPHIDES	蒲谷 和行	HARR 3/4	24.55		0.7554	40 12 52	109360.8	3 2	3 1	12
I	4014	PRIMA	柴田 邦敏	N/M 68	69.75		1.0951	27 51 46	109845.1	1	3 2	18
V	3494	ARC-EN-CIEL II	福田 祐一郎	YOK 31N	22.61		0.7354	41 46 47	110609.3	3 6	3 3	V-VI 3
V	3510	TRACER	三宅 智久	TAK-30	22.08		0.7298	42 23 0	111352.9	3 9	3 4	4
V	3387	BASIC	小坂 博行	YOK 28	21.58		0.7245	42 53 49	111883.8	4 2	3 5	5
V	4324	APHRODITA Jr	菅野 隆	YOK-32S	22.94		0.7389	42 4 26	111918.2	3 7	3 6	6
V	4100	KAISER	石川 均	YOK30	22.37		0.7329	42 25 17	111926.3	4 0	3 7	7
II	3841	JUST 6	堀田 和正	YOK-33R	24.92		0.7591	40 58 43	111984.7	3 4	3 8	13
II	2500	HORIZON	頼瀬 愛彦	YOK 30R	23.11		0.7407	42 14 1	112616.8	3 8	3 9	14
II	3839	海援隊	永田 敬二	HOL 33	24.58		0.7557	41 36 43	113206.1	3 5	4 0	15
II	3306	RIPPLE 3	碓 俊弘	YOK-30R	23.09		0.7405	43 10 6	115078.1	4 3	4 1	16
V	4177	NARUMI 7	竹内 靖	YOK-32N	22.85		0.7380	44 0 18	116912.5	4 4	4 2	8
II	3279	SACHI III	福原 幸洋	Y-34 II	25.34		0.7633	42 33 0	116922.3	4 1	4 3	17
III	3996	紫紺	工橋 照泰	X-99	29.77		0.8056	40 29 41	117441.2	3 3	4 4	18
II	2765	OCEANID	吉田 節美	YOK-31N	23.01		0.7396	44 15 55	117859.0	4 5	4 5	19
V	3333	TABATHA III	久保田 茂	YOK 31	22.37		0.7329	44 55 50	118546.6	4 6	4 6	9
V	4218	NAPOLEON	石田 和久	YOK-30	22.76		0.7370	44 56 42	119248.1	4 7	4 7	10
V	2677	GREAT PEOPLE	藤野 真子	YOK 31N	22.68		0.7362	45 29 58	120588.1	4 8	4 8	11
II	2221	梓	杉村 直樹	Y-33	24.53		0.7552	51 40 3	140469.5	4 9	4 9	20
II	2640	サンビーム II	中村正三郎	KIH-33	24.48		0.7547	53 8 40	144389.2	5 0	5 0	21
II	3771	EXADOR	小林 正和	FARR-40	30.09		0.8085			DNC		
II	2211	CARINO 8	古川 浩	FARR-40	30.54		0.8126			DSQ		
II	3800	KARASU	斜森 保雄	TAK 40	30.94		0.8162			DNC		
V	2362	GALIBER	下津 芳郎	NIC-30	22.38		0.7330			RET		
V	3699	NOVA	植原 俊雄	HAY-30	22.87		0.7382			RET		
V	3228	ALPHA	関 健治	YOK-32	22.95		0.7390			DSQ		

参加艇クラス I~II 21艇

IMS Aコース (距離180M スクラッチボートのG.P.H 608.7)

クラス	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	G.P.H	ペナルティ %	所要時間 H M S	修正時	到着順位	総合順位
IMS-A	4111	CORVATSCH III	加藤 忠男	BALTIC 43	608.7		31 20 0	112800	1	1
IMS-A	4014	ESMERALDA	植松 泰真	J-33	638.2		33 20 25	114715	2	2
IMS-A	3006	BORN FREE V	佐藤 一郎	DER-38	646.4		35 44 22	121876	3	3
IMS-A	312	HAYATORI	草間 信二	X372	642.4		38 53 39	133953	4	4
IMS-A	141	SHIOKAZE VI	山本 生治	SIGMA 38	652.8		41 20 18	140880	5	5
IMS-A	120	DONGAME 8	渡辺 修利	WAT-36	654.3		42 58 53	146525	6	6
IMS-A	3617	SCEPTER	加本 利之	YAM-30S2	689.6		45 21 27	148725	7	7
IMS-A	4307	CLISTALLA II	M 堀村	BALTIC 35	674.3		51 31 15	173667	8	8
IMS-A	4151	LIBRA	植村 秀則	X-99	660.8				RET	

CR Bコース スタート 1990年7月27日 12時20分0秒 風速9% 距離150M レース委員長 宮坂 敬三

クラス	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. m	ペナルティ %	T. A	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位	クラス 順位
1	4366	A-4	木村 真章	SWAN 36	8.25		572	30 56 38	25598	5	1	I-1 1
1	4137	BJ 7	猪狩 光清	FC-11	9.35		534	30 45 11	30611	4	2	I-1 2
1	2230	BYE BYE	清川 恒一	TAK-33	8.00		582	32 51 1	30961	8	3	I-1 3
1	3610	タートル IV	増田 順一	DOU-42	10.55		499	31 7 54	37224	7	4	4
1	4352	BLACK SHEEP	熊沢 審	LIDGARD 50	12.60		453	29 20 46	37696	2	5	5
2	3639	CRISTPHER 2	佐々木 康治	YOK-31N	7.15		619	36 22 20	38090	1 6	6	II-1 1
1	4354	MILKY WAY III	T. 天川	BALTIC40	9.65	5	525	31 7 7	38878	6	7	6
2	4023	VIRGO	小野田 泉	YAM 30R	7.60		598	35 48 46	39226	1 4	8	II-2 2
1	4241	G'NET	神戸 静江	FNG 36	8.45		564	34 24 50	39290	9	9	7
2	2658	MOSSY-TIE	小林 潤一	YAM-34STD	7.65		596	35 46 5	39365	1 3	10	II-3 3
2	3889	MIZUNEZUMI	重松 良周	Y-30ST	7.10		621	37 7 58	40528	2 0	1 1	4
2	3363	WOOD STOCK	古川 哲信	YOK-31N	7.35		609	36 42 46	40816	1 7	1 2	5
2	4333	MER AMI	古川 政幸	SWING 31	7.30		612	36 52 26	40946	1 8	1 3	6
2	2028	SAKIGAKE III	入月 一夫	SWING 31	7.00		626	37 53 0	42480	2 6	1 4	7
2	4302	C-SKY	久保田 雅也	YOK-33RC	7.25		614	37 26 5	42665	2 3	1 5	8
1	1115	STAYER	吉田 修	X-372	8.75		554	34 57 42	42762	1 1	1 6	8
2	4359	SWING	S. 薮田	SWING 31	7.30		612	37 25 22	42922	2 2	1 7	9
3	4058	INFINI	水沼 昇一	YOK-29	6.95		628	38 12 33	43353	3 1	1 8	1
2	2466	MERLUZA	杉田 泰	SWING 31	7.40		607	37 22 24	43494	2 1	1 9	10
1	3868	OPABINIA	赤坂 勝良	SWAN 53	13.00	5	445	29 15 57	43875	1	20	9
2	3967	CARIBBEAN-3	浜村 尊司	YAM-30S2	7.10		621	38 7 16	44086	2 9	2 1	1 1
1	4130	HIPPOCRATES	飯島 俊彦	FC-11	9.45		531	34 35 16	44866	1 0	2 2	10
3	4134	SUPER WINDS	糸川 裕	YAM-30-S2	6.90		631	38 45 39	44889	3 2	2 3	II-1 2
2	3545	NEW TOP CAT	桑原 孝雄	SAWAJI 35	7.40		607	37 49 48	45138	2 5	2 4	1 2
1	3861	120-MO	堀田 雄三	ADAMS	16.65		389	29 25 32	47582	3	2 5	1 1
2	4316	MANIJU	野口 惣治	DP-33	7.85		588	38 2 58	48778	2 8	2 6	1 3
2	3484	URANAMI	市川 勇章	TAK30C	7.50		603	38 50 37	49387	3 3	2 7	1 4
3	3898	AEOLIS	飛島 章	Y30C2	6.75		638	40 20 36	49536	3 9	2 8	III-1 3
3	3763	YING CHAN III	鈴木 晴夫	YAM 30 C2	6.70		641	40 42 50	50420	4 2	2 9	2
1	4139	NO PLOBREM	内海 哲	F-35S5	8.15		576	38 2 57	50577	2 7	3 0	1 2
3	4138	QUESTION	武部 芳宣	SWING 28	6.75		638	40 41 13	50773	4 1	3 1	5
3	3612	ANGLER III	大塚 克巳	YOK 28	6.65		644	40 57 49	50869	4 7	3 2	6
1	3768	FRENCH KISS	山科 誠	X-402	9.70		523	35 59 23	51113	1 5	3 3	1 3
2	3592	LAHAINA-III	佐藤 文昭	EDV-30	7.35		609	39 38 10	51340	3 4	3 4	1 5
2	3910	CHANCE 3	山本 和秀	SWING 31	7.35		609	40 8 44	53174	3 7	3 5	1 6
2	2927	HARIMAO	山本 卓	YOK-32	7.40		607	40 11 55	53665	3 8	3 6	1 7
2	4267	BIBI	辻 宗和	FEEL 316	7.05		623	40 53 48	53778	4 5	3 7	1 8
3	3658	SEA FEAVER	山本 誠	PIONER 9	6.50		652	42 27 57	55077	5 5	3 8	7
1	2580	MEG	竹内 保史	FIRST EURO	10.25	3	507	35 31 55	55702	1 2	3 9	1 4
1	3828	AGNES IV	石黒 徳衛	WATANABE36	9.05		543	38 10 46	55996	3 0	4 0	1 5
2	3988	ARIADONE	松本 武男	YOK-30N	7.15		619	41 25 1	56251	5 1	4 1	1 9
2	3203	VIVACE	福本 金生	YOK-31	7.30		612	41 11 56	56516	4 8	4 2	20
2	4018	HANAKO-3	樋口 亮	YOK-26	6.85	3	633	40 57 36	56930	4 6	4 3	8
3	4323	テレスコ	三浦 征幸	SWING 28	6.65		644	42 39 51	56991	5 6	4 4	9
3	3426	DANCE OF MAGIC	原田 八郎	SWING 28	6.55		649	43 8 26	57956	5 8	4 5	10
2	2253	FILLY V	萩田 光治	SWING 31	7.45		605	41 18 29	57959	4 9	4 6	2 1
2	1604	CLARISSA	S. SHIMADA	BALTIC 35	7.85		588	40 36 20	57980	4 0	4 7	2 2
1	4300	BLAZAR	加藤 民夫	SABRE 38	8.30		570	40 0 9	58509	3 6	4 8	1 6
1	2623	BLUE	古川 正雄	YOK-33	8.00		582	40 49 37	59677	4 3	4 9	1 7
1	380	TETHIS III	山崎 利治	U-38	8.60		559	39 54 40	59830	3 5	5 0	1 8
2	180	だぼはぜ	土肥 丈志	BNT-375	7.25		614	42 14 47	59987	5 4	5 1	2 3
2	3181	HENRIQUE	鈴木 秀夫	X-342	7.40		607	41 58 13	60043	5 3	5 2	2 4
3	3913	HIBISCUS II	吉川 章二	TK-29	6.50	5	652	41 52 10	60467	5 2	5 3	1 1
1	4073	ELVA	H. 市川	S-36	10.20	3	509	37 3 8	61040	1 9	5 4	1 9
1	386	MORE JOY SIETE	石川 幸久	FIRST41S5	9.20	5	538	37 48 11	62196	2 4	5 5	20
3	3371	WHITE CROW	菅沼 慎	YAMAHASOS	6.45		655	44 56 46	63556	7 2	5 6	1 2
3	3211	MERCURE	大矢 隆一	Y-30S	6.80		636	44 16 28	63988	6 6	5 7	1 3
2	210	QUERIDA III	竹内 聡	HI TEC30	7.15		619	43 34 1	63991	5 9	5 8	2 5
2	1985	波勝	高野 敏男	SK-32	7.05		623	43 51 45	64455	6 2	5 9	2 6
2	4280	SARA	渡辺 俊一	YAM 30S2	7.20		616	44 2 42	66162	6 5	6 0	2 7
2	4253	EQUATOR II	筆岡 英夫	DEHLER 34	7.50		603	43 40 19	66769	6 0	6 1	2 8
2	3590	VIGOROUS	岩沢 文男	EDV-30	7.15		619	44 50 52	68602	7 1	6 2	2 9
1	4182	BEATLES AGE	坂井 繁之	N/M 34	8.45		564	42 43 53	69233	5 7	6 3	2 1
1	2477	朝鳥	S. 田村	DOB 37	8.45	5	564	40 46 55	69556	4 2	6 4	2 2
3	189	きんばち	森 輝夫	X-79	6.30		663	46 57 17	69587	7 5	6 5	1 4
1	3536	絵由人	向井 豊安	ELIOTT 10	9.75		522	41 19 48	70488	5 0	6 6	2 3
3	4113	ARCACHON III	小室 忠安	FIILING326	6.70		641	46 27 58	71128	7 4	6 7	1 5
2	2862	おおみずなぎどり	北村 宗彬	U-34	7.75		592	44 34 23	71663	6 8	6 8	30
1	4232	FIRST APPROACH	大塚 修一	SWAN 36	8.20		574	43 56 53	72113	6 3	6 9	2 4
1	2962	HO-UN 3	水谷 大康	FAR-35	8.45		564	43 50 54	73254	6 1	7 0	2 5
2	4350	WIND MESSAGE	青山 真	NAK-295	7.10		621	46 17 49	73519	7 3	7 1	3 1
2	3640	CAPRICIOUS	松本 幸男	EDV-30	7.20	5	616	44 39 20	76398	7 0	7 2	3 2
1	3702	SHUTEN-DOHJI	斉藤 実史	ADAMS 13	8.65		557	44 36 12	77022	6 9	7 3	2 6
3	3593	KARURA	矢嶋 泰淳	VEN30	6.95		628	47 57 17	78437	7 6	7 4	1 6
1	1044	TELEMATIQUE	高城 昌彦	JN-34	8.20	3	574	44 28 36	78819	6 7	7 5	2 7
3	3877	GUANDALINA	康悦	F-305	6.30		663	50 35 54	82704	8 1	7 6	1 7
3	4214	七福神	原 尚宏	YAM 30S2	6.95		628	49 23 43	83623	7 7	7 7	1 8
2	4178	MIROKU I	太田 宏	U-30	7.00		626	49 24 12	83952	7 8	7 8	3 3
3	1735	OHKO III	伊坂 裕次	YOK-29	6.95		628	49 39 24	84564	7 9	7 9	1 9
3	1190	HERIOS	崎 順吉	PION10	6.70		641	50 14 47	84737	8 0	8 0	20
3	668	AURORA	船越 康男	VAND 30	6.45		655	51 11 2	86012	8 3	8 1	2 1
1	2959	EBONY V	武盛 文彦	ROCKET 30	11.35		480	44 0 13	86413	6 4	8 2	2 8
1	4156	ROMAN	大武田 幸夫	GIBS402	8.80		552	50 37 24	99444	8 2	8 3	2 9
1	2777	光(ヒカリ)	砂田 信一	SW 53	10.75		494			RET		
1	3821	SEVEN SEAS	S. 小田沢	JANNUE 37	10.00		514			DNC		
1	3161	DAHRMA	五島 徳雄	FIRST C12	9.80		520			DNC		
1	3233	SEE ADLER V	堀内 滋彦	GIBSEA 422	9.40		532			RET		
1	3482	MANTA 21	西原 基光	RAPET 44	9.00		545			RET		
1	4356	HODAKA	高 彰	RP 40	8.75		554			RET		
1	2110	MOMOTARO	都築 勝利	GIBSEA 402	8.25		572			RET		

1	1311	1 3 1 1	高村 孝	J-34	8.05		580			DNC		
2	4376	POCO II	鬼頭 敏	YAM-34EX	7.90		586			RET		
2	3706	長 良	矢野 敏	YOK32	7.40		607			RET		
2	4093	オブ セッション	野口 壮	ARIC-30CR	7.20		616			DNC		
3	4298	KAIKISENN II	高見 俊	NAK-295	6.85		633			DNC		
3	4175	VOYAGER	木庭 康	EDV 30	6.80		636			RET		
3	3054	THIGHT LESS	岩崎 洋	YAM30C	6.60		646			DNC		
3	3604	CLERITO LIMDO 5	長野 晋	Y-30 C2	6.60		646			DNC		
3	2691	HORNET II	中村 孝	J-24	6.50	3	652			RET		
3	4136	NAIADO	福井 雅	JAN 990	6.50		652			RET		
2	4037	METOR	T. 牧野	YAM 30S2	7.30		612			DNC		

ペナルティについて

レース委員長 宮 坂 敬 三

- 1) スタート時のリコール艇に関してはペナルティ 5%を加算。
- 2) スタート時のマークタッチを解消する際に360度しか回転しなかった艇は、ペナルティ 3%を加算。
- 3) ただし、セールNo.3868, OPABINIAは、2) のマークタッチにもかかわらず、回転することなくレースを行い、フィニッシュしたためペナルティ 5%を加算。
- 4) セールNo.3868, OPABINIAは到着順位 1 位ではあるが、3) のペナルティによりファーストホーム賞は、到着順位 2 位のセールNo.4352, BLACK SHEEPとなります。

IOR/JOR Bコース (距離150M)

クラス	SAIL No.	艇 名	オーナー	TYPE	R. ft	ペナルティ %	T.C.F	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位	ク ラ ス 順位
II	1465	MAUPITI	岩田 真男	FRERS 38	30.87		0.8156	31 11 50	91600.0	1	1	II-M 1
IV	3351	BIG SHOT	赤井 徳夫	KUMAZAWA33	23.29		0.7425	35 39 48	95328.1	3	2	II-M 2
V	1659	HASTAMANANA	杉本 幸夫	TAK-30	22.32		0.7324	38 19 22	101043.4	6	3	V 1
II	2422	青 葉	福田 義一	YOK-40	30.82		0.8151	34 33 17	101396.0	2	4	II-M 3
IV	3302	TRIANGLE	長谷川隆男	KIHARA 34	25.08		0.7607	37 55 50	103873.6	5	5	V 2
V	3439	RARALE	森 章	YOK31N	22.66		0.7360	39 42 43	105220.8	7	6	V 3
II	4004	PAPAPHRENIAM 7	荻須 立一	X-99	30.95		0.8163	36 44 9	107954.9	4	7	II-M 4
V	3558	MAY BE	小川 利男	YOK 31N	22.57		0.7350	40 56 43	108341.2	8	8	V 4
V	3869	勇 魚 (イサナ)	遠藤 繁樹	YAM-30ST	22.28		0.7320			DNC		

OPEN CLASS (距離150M) 4260 FOLLOW ME S.CURRIE F-27 36:39:49

■新登録艇のご紹介

4178 弥勒ー I U-30 霞ヶ浦 9.15m
×7.00×3.20×1.75 ◎オーナー代表/太田宏 ◎共同オーナー/伊藤猛・田口淳二・中村勝三 ◎艇名の由来/柳田邦男『海上への道』より、江戸時代、茨城県鹿島地方に一時代、非常に栄えた時期があり、それを俗に『弥勒時代』という。それにあやかって、私たちも、よりよく栄えたいという気持ちから。 ◎これからの抱負/大型艇までも自作出来るようになり、それで、グアム・ハワイまで行ってみたい。 ◎クルーの顔ぶれ/霞ヶ浦ヨットハーバーにある、アドニスヨットクラブの仲間。 ◎その他NORCへの要望/特になし。

4375 HANAKO OSEANIS 390
大阪北港 Y. C. 11.65m×10.15 ×

3.90×1.65 ◎オーナー氏名/岸田 貢
◎艇名の由来/縁があって我が家に生後40日で作って来た“迷犬”の名前。彼が我が家に来てからは、自艇も26フィートから35フィート、そして今回の39フィートと、どんどんグレードアップ。今だにグレードアップしていないのは、彼のヘルメット。 ◎これからの抱負/大阪の北港のはずれにあるヨットハーバー。今、若者の最高のデートスポット。ならびに過去4年間8名のクルーの皆とすごして来たヨットライフ。環境もいいし、艇は新しい。こんなごきげんなことは本当でない。これで大阪湾がもう少しいいだったら申し分なし。 ◎クルーの顔ぶれ/大阪湾でクルージングをしていた私と琵琶湖でレースをしていた山田佳人君(大阪市職員)と、帆船まつり'83で

知り合い、前艇ハナコ(35ft)にて活動。仕事以外で本当に気の許せる素晴らしいクルーの面々。つづいてあと6名 ◎その他NORCへの要望/大阪湾を、あの水の汚い大阪湾を、カラフルなスピンドでもっときれいに、デコレーションしましょ。そして、みんなで仲良く遊びましょう。
4410 デシジョン デヘラー36 サントピア 11m×9×3.5×1.98 ◎オーナー氏名/鳥井親一 ◎艇名の由来/30才になった時に一号艇を購入。自分で判断すべき年になったことを自覚する意味でこの艇名をつけました。 ◎これからの抱負/厳しさの中にも、楽しいレースへの参加を指向していきたい。

通信関係頒布物品価格改訂について

NORC通信委員会

NORC通信委員会では下記物品の頒布を行ってまいりましたが、諸般の事情により価格の改訂をさせていただきます。

尚、お申込、お問い合わせは本部事務局までお願い致します。

通 信 頒 布 物 品 名	価 格
VHF-FM船舶無線装置 MR 2001 (固定型)	78,000
VHF 帯用アンテナ	8,000
VHF-FM船舶無線装置 MR 1001 (携帯型)	75,000
イーパブ (RLB-20型)	75,000

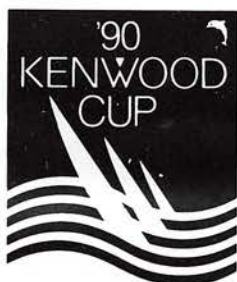
付属消耗品

MR 1001 用バッテリー	5,000
イーパブ (RLB-12型) バッテリー	輸入中
イーパブ (RLB-20型) バッテリー	12,000

イーパブをお持ちの艇のオーナーの方へ!

イーパブ (RLB-12/RLB-20) のバッテリーの有効期限は大丈夫でしょうか? 調べていただき、切れていたら新しい物と取り替えが必要です。

※無線装置取り付けについてのお問い合わせも本部事務局までどうぞ。



'90KENWOOD CUPに参加して

イリカイホテルの前、アラワイヨットハーバーのはずれに鮮やかなライトブルーの艇が舳つてあった。通りすぎざまに目を向けた私であったが、ハルサイドの艇名はポンツーンにさえぎられ良く見えず、誰のデザインかなと思ったくらいで特に気にとめることはなかった…。

今回、“PROPAGANDA”の1クルーとしてこのレースに参加できた私は、久しぶりにハワイの澄みきった空気のなかを空港からホテルへ直行し、その足でハワイ・Cに急いだ。

“MATENROW”が速い艇であることがわかったのは、我々の艇が“BLUE-NOTE”との合同練習を終え、モロカイレースの下調べに、ココヘッドまでナビゲーションチェックに行こうとした際であった。“MATENROW”はNZが日本艇をチャーターしたもので、当然乗り手のほとんどはキウイ達である。まして、艇長のトム・ドットソンは“PROPAGANDA”のヘルムスマン、リチャード・ドットソンの兄貴である。この兄弟は、2人ともNZ North Sailの代表者で、ともに'89アドミラルズカップNZチームのスキッパーも務めている。

海上で出会った“MATENROW”のハルはライトブルー。紛れもなく、あのアラワイヨットハーバーに舳われていた艇であった。

いつの間にか、我々と“MATENROW”のあいだで、プレレースが始まった。ダイヤモンドヘッド東のカウラ地区。最高級別荘地の、それこそ庭先まで入り込み、タックをうってバウをココヘッドに向ける。水深は10mを切っており、ハワイの澄んだ海もあいまって、ハイクアウトしながらでも海底の岩と白い砂が見える。この間約2時間。ようやくココヘッドにたどり着こうとした時点で艇差は、半艇身であった。我々はそれこそミスがないように一生懸命なのに、彼らは実に楽しそうにやっている。しかもミスがまったくないのである…。

8月3日11:10、クラスEがスタートした。今回のケンウッドカップではクラスCとクラスEが一番の激戦区である。クラスCは言わずと知れた4艇のフィフティーの

戦い、クラスEは13艇のワントン勢の戦いである。

このなかで残念に思えたのは、88年のレースにあれだけの艇を送り、昨年11月のフィフティーレガッタにも9艇が日本にやってきたというのに、今年は目立った艇が“BRAVURA”と“SORCERY”だけというアメリカ勢の少なさであった。

“BRAVURA”、“PROPAGANDA”、“ULTIMATE-CHALLENGE”は88年のワントンカップで、また“BRAVURA”と“PROPAGANDA”は89年のアドミラルズカップで顔を合わせる。今回のレースでも、これらの艇にはそれなりに腕の立つヘルムスマンが乗っていたようだ。

“BRAVURA”は下から、“MATENROW”は上からスタートした。風速は16ノット。スタートして10分も走ると必ず順位が生まれる。日本ではなかなか思ったように走れなかった“PROPAGANDA”は、レース本番になって初めて本領を発揮し始め、“BRAVURA”には一歩先に行かれたが、他のワントン勢をすべて後にし始めた。距離は27.7マイルであるが、オリンピック+ソーセージコースにしては上下がとても長く感じられる。

上ーサイドー下とそのままの順位で走り、何とかして“BRAVURA”に追いつこうとした矢先、フォアステイを止めていたマスト側ステムが吹っ飛んだ。マストが折れなかったのはNo.1ヘビーのラフがショックをやわらげたせいだろう。しかしそのラフも30秒もたたないうちにピーク付近のシームから破れた。すぐにランナーをゆるめ2本のハリヤードをバウのステムに引っ掛け急場をしのぎ、メインだけでハーバーに帰った。

ポンツーンに舳い、修理の段取りを始めたころ、マキシ艇“DRUMBEAT”がレースを終えて帰ってきた。信じられない早さである。我々は、急いでアラワイマリーンに艇を廻し、修理可能かマスト交換か見てもらったところ、修復できるということになり、マストを抜いて作業にかかった。そして、夜の8時頃までになんとか修理を終わらせ、翌朝7:00からのセッティングで、第2レースに間に合うようになった。

第2レースでは、我々は第1上マークをワントン勢のトップで回航。途中、“MA

TENROW”に抜かれはしたが、“BRAVURA”がフォアステイ・トラブルを起こし、完走したものの順位を下げたので、クラス2位、総合で6位に入った。

第3レースでは“BRAVURA”1位、“MATENROW”7位、“PROPAGANDA”8位であった。この時点でのオーバーオールは、“CYCLONE”1位、“HEAVEN-CAN-WAIT”2位そして“WILL”、“TIGER”の50フッター、“MATENROW”、“BRAVURA”が上位を占めていた。

3本のトライアングルを終えて感じたことは、この海域で上位を走るにはリコールと艇の状態に細心の注意を払い、他艇とのかけひきに長けた、腕力のある一流のヘルムスマンを配することが基本条件のように思えた。

私は仕事の都合でここまでしか乗れなかったが、モロカイレースで1位を取った“CYCLONE”が第5レースでも2位になりながら最終レースでのデスマストで総合7位に甘んじざるを得なかったように、このシリーズが艇とクルーにいかにも無理を強いているかわかると思う。途中まで上位につけていた“BRAVURA”でさえ、最終レースにブームを折り12位に甘んじた。逆にノートラブルでポイントを稼いだ“MATENROW”が勝利を得たのである。

ハワイはトロピカルがゆえに、走っている間に受けるストレスは見落としがちである。このシリーズに出場した日本艇の大多数は、続くジャパソカップにも出場するだろうが、それまでに艇のメンテナンスを十分にやらないと、今度こそトラブルに見舞われることになるだろう。

ハワイに来ていつも思うのだが、本当に日本に持って帰りたいと思うのは、ケンウッドカップのスーパーニールでもなければ、ハワイの気候でもない。ただここにある、2つのヨットクラブだけだ…。こんな思いにかられるのは私だけだろうか。

最後に'90ケンウッドカップに参加したひとりとしてモロカイレースで亡くなった“an”の斉藤さんの冥福を祈ります。

会報小委員会 関 恭一郎



艇別総合 1 位“摩天狼”デザイナーより

第2レースの上マークをトップ回航したPROPAGANDA、BRAVURA、MATENROWが続く

“摩天狼”デザイナー 横山一郎
「日本人のデザインで日本で建造し、世界のトップレベルと競い結果を出す……」これが我々のテーマであった。このチャンスを与えてくれたオーナー、コーディネーターの方々に感謝をいたします。

昨今のレースシーンで圧倒的な“シェ

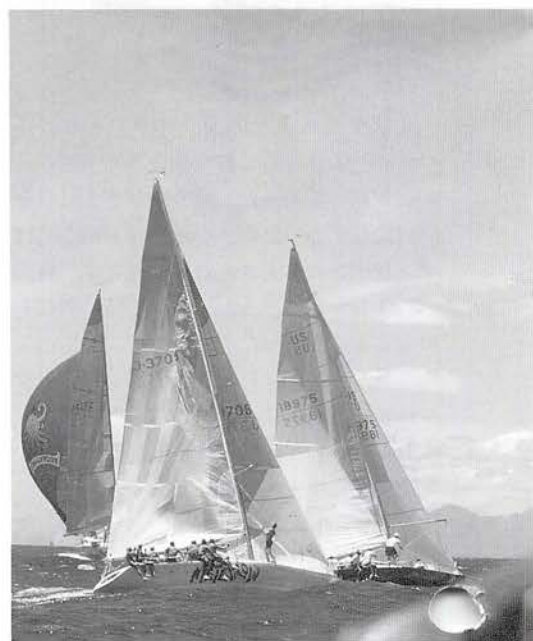
ア”を誇るファー・デザイン艇団、そしてサーキットレース転戦中の50フィートクラス等、決してたやすく勝たしてもらえない状況ではない。“摩天狼”はニュージーランドチームの申し入れによりトム・ドッドソンをスキッパーとした8人のキーウィー達に加えてニュージーランドでセールメーキ

KENWOOD CUP 1990 IOR 艇別成績

Yacht	Position	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	Race 6	Total
MATENROW	1	54	64	56	93	58	124	449
HEAVEN CAN WAIT	2	68	66	60	75	68	112	449
TIGER	3	66	50	66	99	64	104	449
WILL	4	60	62	62	96	62	84	426
BOY	5	52	46	48	78	52	128	404
ARECAN BAY	6	46	48	44	72	56	132	398
CYCLONE	7	64	68	64	102	66	28	392
ULTIMATE CHALLENGE	8	42	52	42	63	48	136	383
SWING	9	48	60	50	60	42	116	376
DRUMBEAT	10	58	54	58	57	44	100	371
PROPAGANDA	11	4	58	54	69	54	120	359
BRAVURA	12	62	42	68	90	60	28	350
SPICA V	13	26	36	34	81	46	92	315
NINJA	14	38	56	46	84	40	28	292
SORCERY	15	56	40	52	45	38	60	291
STAR & STAR	16	40	20	14	54	36	108	272
LIBERTE EXPRESS	17	32	32	38	48	34	68	252
BLUE NOTE IV	18	44	44	40	87	12	4	231
CAMOUFLAGE	19	24	30	30	33	32	80	229
TOBIUME	20	10	22	16	66	16	88	218
MIMI	21	18	38	36	39	30	56	217
KAITARO V	22	50	6	2	3	50	96	207
N.Z. NATURAL	23	30	24	26	42	18	48	188
WILL J	24	22	12	24	15	28	76	177
MAUNA LANI FLASH	25	12	26	20	30	22	64	174
CANE FIRE	26	14	18	18	24	24	72	170
STARLIGHT EXPRESS	27	20	16	22	36	20	52	166
MAD MAX	28	16	10	28	51	26	28	159
AN	29	36	28	32	15	2	4	117
WILD THING	30	8	8	12	27	14	44	113
BRINDASELLA	31	34	34	8	3	2	4	83
MARSHITEN	32	28	14	8	15	2	4	71
MI	33	4	2	2	3	2	4	17
ADMIRAL NEVELSKOY	34	2	2	2	3	2	4	15

IOR チーム成績

Position	Team	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	Race 6	Total
KENWOOD CUP								
1	JAPAN BL	96	100	102	150	96	184	728
2	AUS	112	114	104	135	102	136	707
3	JAPAN GN	64	78	66	132	62	168	570
4	USA RED	78	58	86	90	70	80	462
5	NZ	52	56	56	93	50	120	427
6	JAPAN YL	44	30	26	66	50	144	360
7	USA WH	14	22	18	30	26	112	222
WORLD CUP								
1	AUS	38	44	30	54	42	68	276
2	JAPAN	34	34	36	54	32	76	266
3	USA	18	12	24	27	16	32	129
YACHT CLUB								
1	CYCA	98	94	92	117	90	120	611
2	ABYC	52	78	76	126	62	112	506
3	NORC	50	62	56	90	54	136	448
4	RAYC	48	50	50	81	38	108	375
5	WYC	42	42	50	66	48	64	312
6	HMYC	52	16	18	33	52	140	311



ングの修行中の西村一広氏と、オーナー側から2名、合計11人でクルーを組んだ。

“摩天狼”は進水後すぐにハワイに輸送された。さらにハワイまで追いかけて、キール下部をカットし、木のダミーに変更するなどして、レーティング再計測、そしてレースに向けて細かい機装調整等の作業が日本・キーウィー共同で暑いハワイで続けられた。

何にしてもチューニングもシェークダウンもまったくの時間不足であった。

しかしレースの一週間前から始まったトレーニングで我々は確かな手ごたえを感じ始めていた。

“摩天狼”はレース序盤戦から前回の覇者“ブラブーラ”そして、ワントンカップの覇者“プロパガンダ”とミッドモエの闘いを繰り広げていた。

第1レースで“ブラブーラ”に負けたものの、第2レースでは総合3位、クラス1位となった。最終マークまで、クラス2位で追いついていた“ブラブーラ”はヘッドステートラブルで大きく遅れてしまった。

それ以後“ブラブーラ”とは1位と2位を交代で取り合う厳しい戦いを続けた。

総合では50フィートクラスがやはり速く4位までを独占していた。しかし、“摩天狼”と“ブラブーラ”が僅差でピッタリ背後につけていた。最終レースでの結果によりこの6位までのどの艇にも優勝の可能性が残されていた。

“摩天狼”はレース中盤からスピードに

自信をつけ、ロングレースでのスピード競争に期待をつないでいた。この最終レースで上位グループが崩れ去って行き、追いつかる“ブラブーラ”もブームトラブルによりリタイヤした。楽になった“摩天狼”も復路北上しカウアイ島に少し近よりすぎカームにつかまってしまった。後続のワントン艇団が先行して、その後の必死の追い上げにより大幅にリカバーしたものの、クラス4位（総合4位）となってしまった。なんとか3艇の同点1位となったが、最終的に修正時間の合計タイムが最短であった事により、シリーズ総合1位が確定した。

“摩天狼” 設計番号054は40フィートワントンカッパーとしての最新設計である。

我々にとってこのサイズのデザインとして7番目のものであり、この数年間の新しいアプローチを反映した全く新しいデザインである。

この3年間、 $\frac{1}{2}$ トン、 $\frac{3}{4}$ トンで船型、フィンキール、ラダー、デッキレイアウト、構造等に思いきった新しい試みに挑戦して来た。“リップル”“ハート”“ダイヤモンド”“ブルーサンシャイン”“エミ”“ジャスト”等々、そして内外のトップセーラー達にも乗っていただき彼等の意見をもとに改造を行うなど、各オーナーの理解と協力により実艇テストが続けられて来た。

また、我々はニッポンチャレンジ・アメリカズカップのキャンペーンにデザインチームの主要スタッフとして種々の活動に参加して来た。

当然船の形は異なるが、水槽テストによるモデルテストや、各種のシミュレーション・スタディにより、各々の性能・パラメーターの効果、効率をチェックする事もできた。

これは日本の造船技術の誇る優れた研究設備とアナリスト達の助けによる所が大きい。

このデザインは中風からやや強風まで対応できるデザインとして考えられた。

船体として、やや小さめの船型を選びIORルールによるデフォーメーションがなるべく小さくなるようにした。特に前後方向のラインのフェアネス、ボリューム分布のフェアネスに細心の注意を払った。

アペンデージに関しても数年前に西独のスピードウェーブ社にフィンキールのテストを依頼して以来、我々独自の研究をさらに進め、いくつかの発展型を創り出し、機会をとらえて実艇テストを続けて来た。形

状、サイズ共にオブティマムが決まりつつある。

“摩天狼”はツボキヨットで建造された。この艇にとってもう一つの重要なポイントは構造と建造方法である。

エポキシレジン・カーボンファイバー・プリウェットシステムを独自に開発し、デッキとハルにアラミドハニカムを使用している。

加熱硬化室を設置し、 $\frac{1}{2}$ トンクラスによるテストを数回にわたって行った。

構造物の軽量化は予想外にうまくいき、バラスト比は70%に迫るものとなった。

このキャンペーンを通じて得られたものは当然『優勝』という結果だけではない。

“摩天狼”はチューニング不足とはいえ、世界のトップスピードの確認を行った。しかし我々はこのシリーズを通じて、何が良かったか、何を改良したらもっと良くなるかを知ることができた。この艇はまだ速くなる可能性を秘めていると思う。

当然、今後のデザインを発展させる上で重要な確認と方向性の把握を行う事ができた事は大きな収穫であった。

我々はこの夏ハワイの海で、さらに速いデザインを創り出すための改良点をいくつも発見したことになる。

お断りしておきますが、このような技術はレーサーのためだけのものではなく、快適に楽しくセーリングするすべてのヨットに反映できるものが多く含まれている事を御理解していただけると幸いです。



第3レースの“プロバガンダ”と“マテンロウ”（写真提供：舵社）

NORC保険デスクより

医療保険金の請求にあたって

搭乗者傷害保険では、ヨットに搭乗中、偶然な事故により搭乗者が死傷した場合に保険金が支払われます。

保険金として『死亡保険金』『後遺障害保険金』『医療保険金』がご契約に応じて支払われます。

「搭乗中」とは、「手か足がヨットにかかったときから、身体のすべてがヨットから離れるまで」をいい、場所は海上、陸上、保管中を問いません。

『医療保障付』でご契約になりますと、ケガによる入院・通院日数に対して、1日あたり1万円の医療保険金があり、事故の日から180日限度で支払われます。

事故報告は、オフショア5月号でお知らせしたとおりです。

保険金請求は、医師の治療を受け平常の生活もしくは仕事にさしかえない程度に治癒された後に、手続きをとらせていただきます。

手続きには次の資料が必要ですのでご提出にご協力ください。

- ①診察券のコピー
- ②診断書（治療日数が3日以上の場合に必要となります。）
- ③傷害事故証明書（所定用紙があります。被保険艇での搭乗中の傷害事故であることをオーナーが証明する書類です。）

上記必要資料の受理後、当デスクで保険金請求書を記入致します。

保険金請求者は、ケガをされたご本人となりますので、請求内容の確認とご捺印をいただくことになります。また、保険金はお指定口座への銀行振込によりお支払い致します。

ご不明な点はお問合せください。

団体窓口 NORC保険デスク			
東京都千代田区神田錦町1-9 天理ビル 東南興産株式会社東京営業所内 担当：有光 庄子、長尾 光 TEL：0120-024410 FAX：03-291-2289			
NORC認定代理店一覧		1990.6.1現在	
名称・会員名	〒 住所	TEL・FAX	
横浜石川保険事務所 石川 昇	107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U赤坂ビル	T：03-586-6297 F：03-584-6203	
(株)オフィス・マリン 二階堂 隆	210 横浜市鶴見区市場大和町 4-1 仙台屋ビル 202	T：045-503-5377 F：045-503-1406	
根岸保険事務所 根岸 経樹	198 青森市新町 848 新町台マンション107	T：0428-31-5894	
横浜ビー・アイ・ユー 秋岡 康夫	107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U赤坂ビル	T：03-586-4411 F：03-583-2696	
(株)T・A 代理店 酒井 直樹	107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U赤坂ビル	T：03-583-0783 F：03-584-6296	
(株)タケウチ エージェンシー 竹内 誠	230 横浜市鶴見区下末吉1-8-14 岡安ビル 202	T：045-584-6650 F：045-584-6656	
笹岡損害保険サービス 笹岡 耕平	538 大阪市鶴見区浜2-4-47	T：06-911-2017 F：06-911-1649	
保険のカトー 加藤 幸雄	422 静岡県石田 3-15-5	T：0542-81-3928 F：0542-83-1316	
T・I・C 田中 斎英	106 東京都港区南青山 3-8-14 パーク青山	T：03-405-8269	
KATO 加藤 繁雄	475 半田市亀崎 6-80-14	T：0569-28-2340	
(株)サトー 佐藤 克則	733 広島市西区天満町3-19	T：082-293-0860 F：082-231-5231	
鈴木総合保険事務所 鈴木 幹夫	475 半田市吉田町 4-108-1	T：0569-27-5051 F：0569-27-6581	
株ファミリー旅行社 寺田 順	516-01 三重県度会郡南勢町船越3113	T：05996-6-0933 F：05996-6-0341	
知久保険事務所 知久 良広	730 広島市中区富士見町 2-9-103	T：082-244-5380 F：082-244-5381	
(株)片山保険事務所 片山 彰造	711 倉敷市児島 稗田町 67	T：0864-72-7678 F：0864-72-4071	

三崎にゲストバース出現

三崎北条湾日の出岸壁（三崎サウナ前）にプレジャーボート専用有料ボーンツーンが8月上旬に出来、連日係留するヨットで賑わっている。このボーンツーンはサーフ'90のテストケースとして設置されたもので、すでに約百艇が利用したとみられ、三浦市側では一定の成果が出れば継続も可能ではと見ている。このボーンツーンはゲスト専用バースとして、三浦市役所地域振興推進本部が設置し、三崎漁業協同組合に管理を委託している。三崎港は本来、特定第三種漁港の指定を受けているがプレジャーボートは利用出来ないが、土曜・日曜・祭日には多くのプレジャーボートが三崎魚市場周辺に係留し、宿泊・食事・買い物をして楽しんでいるのが現状である。しかしこうした係留は法の上では認められず、『不法係留』となるが、サーフ'90三浦会場のテーマ『新しい海業（うみぎょう）』のテストとして全国にさががけ実現した。地元商店からは「ヨットマンが買い物・食事に海から来るようになった」と係留以外の経済波及効果が認められている。漁船とプレジャーボートはとすると「敵対関係」にあるが、漁港内の秩序づくりの試金石として始められただけに、現在までのところ『まずまずの成果』（市役所地域振興推進本部 山口理事）をあげている。またこのボーンツーンはサーフ'90の期間に限っての設置だが、早くも市民の中には継続を求める声も出始めており、市でも漁船とプレジャーボートとのルールづくりの為に、設置を継続する意向であるようで、積極的に利用されたい。ただ利用者からは「料金は決して安くはない」との意見が多い。当編集部の調査によると、一日当たり料金（消費税別）は次の通りである。三崎マリン（200円／フィート）・シーボニア（300円／フィート）・葉山港（160円／フィート）であるのに対し、20フィート未満のヨットでは2時間まで2,000円、3時間まで3,000円、4時間以上6,000円と設定されている為、市当局に再考を願いたいものである。料金問題は別として全国各地にこのようなゲストバース開設を会員一団となり、各地方自治体・関係各省市に働きかける時が来たと確信する。そして係留場所を心配する事なく、全国各地をセーリング出来る日が一日も早く来る日が待ち遠しいものである。

会報小委員 藤沢武司

NORC本部職員（計測担当）

募集

☆男子 22歳～30歳 固16万以上

（面談の上決定）

IOR・IMS等の計測に関する作業およびORCルール関係の事務処理他。コンピュータ、英語に強い方。

☆主勤務地 東京都港区虎ノ門

NORC本部

☆賞与 2回（実績5ヶ月）

☆社保、交通費全額支給、退職金制度有
☆10月31日までに履歴書（写真添付）送付のこと。書類選考後、面接日通知致します。

☆問い合わせ・申込先 〒105 港区虎ノ門

1-15-16 船舶振興ビル4F

社団法人 日本外洋帆走協会

Tel 03-504-1911

訂正

7月号『主要役職者名簿』掲載、津軽海峡支部長 米山義勝さんの住所が間違っていました。正しい住所は下記の通りです。

〒042 函館市本通4-10-22

自宅 TEL：0138(54)2526

会社 TEL：0138(23)8412

The latest development in comfort,
style *and* performance in a
high-tech leather
boat shoe.

The
TITANIUM
BOAT SHOE



SHOE LACES

性能と履きやすさを追求して生まれたハーケン・オールレザーボートシューズ「チタニウム」。US最高の品質を誇る柔かいなめし皮、
「ハイドロベル」を使用。更にシリコン加工され、撥水性、最高の防水性能を確保しています。
特製のソール「ウェーブライダー」は土踏まずと爪先、かかとを支えるラバーによって、
又、濡れたデッキでも素晴らしいグリップを約束してくれます。

H 2000

メンズはホワイト地+ブルー/ホワイト+クレイ
¥11800



レディースはホワイト地+レッド・ピンク/ホワイト地+クレイ
¥11800

HARKEN

ハーケンジャパン株式会社 〒662 西宮市西宮浜2-21-9 TEL0798(22)2520



NIPPON CHALLENGE AMERICA'S CUP 1991

8月30日、ニッポンチャレンジのアメリカズカップ・クラス艇の2号艇“AC 6”が愛知県蒲郡市のベースキャンプで進水しました。4月22日の1号艇“AC 3”のときと比べるとごく簡素な進水式でしたが、クルー・トレーニング、そしてレース艇のデータ収集にとっては1号艇以上に意味を持つこの2号艇の進水は、ニッポンチャレンジにとってはカップ獲得に向けて大きく飛躍する大切な課程の一つです。

外見上は1号艇、2号艇とも大きな差はありません。ウインチの配置などのデッキ・レイアウト、マストを支えるバックステイをリードするデッキ位置、デッキのカラーリング、船体のカラーリングなどがほんの少し異なるくらいです。もともと、同じ性能の2艇を走らせることによって艇のデータを収集し、クルーの訓練をする意図で設計・建造されたACボートですから、この2艇がほとんど同じ恰好をしているのは当たり前なのですが、慣れないうちは、どちらが“AC 3”で“AC 6”か、一瞬とまどうことになりそうです。余談になりますが、1987年アメリカズカップの予選では、防衛側のクッカバラ・シンジケートがまったく同じカラーリングの“クッカバラII”、“クッカバラIII”を、あるときは一緒に走らせ、あるときは別々に走らせたものですから、マスコミをはじめ外部のものはあれは“クッカバラII”だ、いや違う“クッカバラIII”だといういろいろあったものです。ライバル・シンジケートを混乱させるにはいいかも知れません。

この日は、進水式に参加したニッポンチャレンジのオフィシャル・スポンサーやサプライヤーの方々が2艇に分乗し、ク

“日本一2” 進水!

ルーたちが本番さながらに模擬タッキングマッチを演ずるのをデッキ上から見学するという演出が用意されていました。同乗された方のお話によると、コックピットは広々としており作業はしやすそう。だが、デッキから見上げるメインセイルは広大で、スピンナーカーに至っては巨大な熱気球を見る思いがする。あれを上げ降ろしするためにクルー1人1人に要求されるパ

ワーは12メートル級の比ではない、ということでした。

この2号艇“AC 6”の進水によってニッポンチャレンジの活動はいよいよ本格的になってきます。来年5月の世界選手権の開催まで8カ月。それまでには、他シンジケートのACボートも多数進水していることでしょうし、アメリカズカップ・ファイナーはますます加速度を増すでしょう。



C・ディクソン『メリットカップ』を制す

8月22日から25日まで、神奈川県三浦市城ヶ島沖で『メリットカップ』(後援: NO R C関東支部ほか)が行われた。12m級ヨットによるマッチレース形式のこの大会には、世界を代表するP・アイスラー、P・ギルモア、C・ディクソン、南波誠が参加した。

予選ラウンドでは、ギルモア、ディクソ

ンが直接対決を待たずに共に2勝となったため、予選での直接対決をキャンセルし、決勝ラウンドへ。ギルモア先勝の後をうけた第2レースでは1分14秒差、最終レースでも1分26秒の大差でディクソンが逃げきり優勝した。また3、4位決定戦では南波がアイスラーを22秒差押さえ3位となった。



写真提供: 産経新聞社

東京ボート天国

TBC in 晴海

第3回東京ボート天国は9月9日晴海で、NORC東京フリート・中央区ヨット連盟・東京都ヨット連盟の各団体の初共催で開催された。ボート天国水域設定と航泊禁止の措置をしていたいただいた東京海上保安部、前日から10艇の泊地をお世話いただいた港湾局のご後援と、晴海乗船場を使用させていただいた東京都観光汽船株式会社、五洋建設株式会社のご協力で、体験乗船、T.B.C.mate in 晴海、ふじ丸・につぼん丸の洋上歓迎の三本立てで行われました。開会式では、内藤フリートキャプテン・石井中央区連会長・貞岡東京海上保安部航行安全課長の挨拶があり、地元築地四丁目青年会の方々を始め85名が、木更津・浦安・東京港マリーナと地元開催の為遠路沼津から参加の茶々丸等30艇に分乗し、晴海沖を約1時間にわたり楽しんだ。体験乗船者からは、一度ヨットレースに参加してみたい。

(男性28才)・気持ちよかった。自分もヨットを持ちたい。(男性20才)・私もお金ためて、ヨットを買いたい。(女性16才)・帆は自然に左右に動くものと思っていたが、タックという人動的操作によるものという事は知りませんでした大変な事だと感

じました。心のゆとり……です。優雅な品の良い揺れでした。ステキですね。(女性41才)等の感想が寄せられ、短時間ではあったがヨットを理解していただき、海事思想普及活動を果たす事ができた。T.B.C.mate in 晴海は21艇により12時21分スタートし、第1上では、先程まで乗っていた艇に大きな声援が飛びかうなか各艇は、東京タワー、高層ビル群を背景にスピンを展開した。保安部から2名の強力助人?が神風丸に同乗し、サイレンを鳴らさず追い抜き、ファーストホームに輝いた。13時30分にふじ丸、につぼん丸が相次いで入港し、

メインを揚げフォーンを鳴らし、乗客は手を振り答えていた。来年は隣接フリートと協力し、多くの艇の参加により東京港をヨットで埋めつくしましょう。

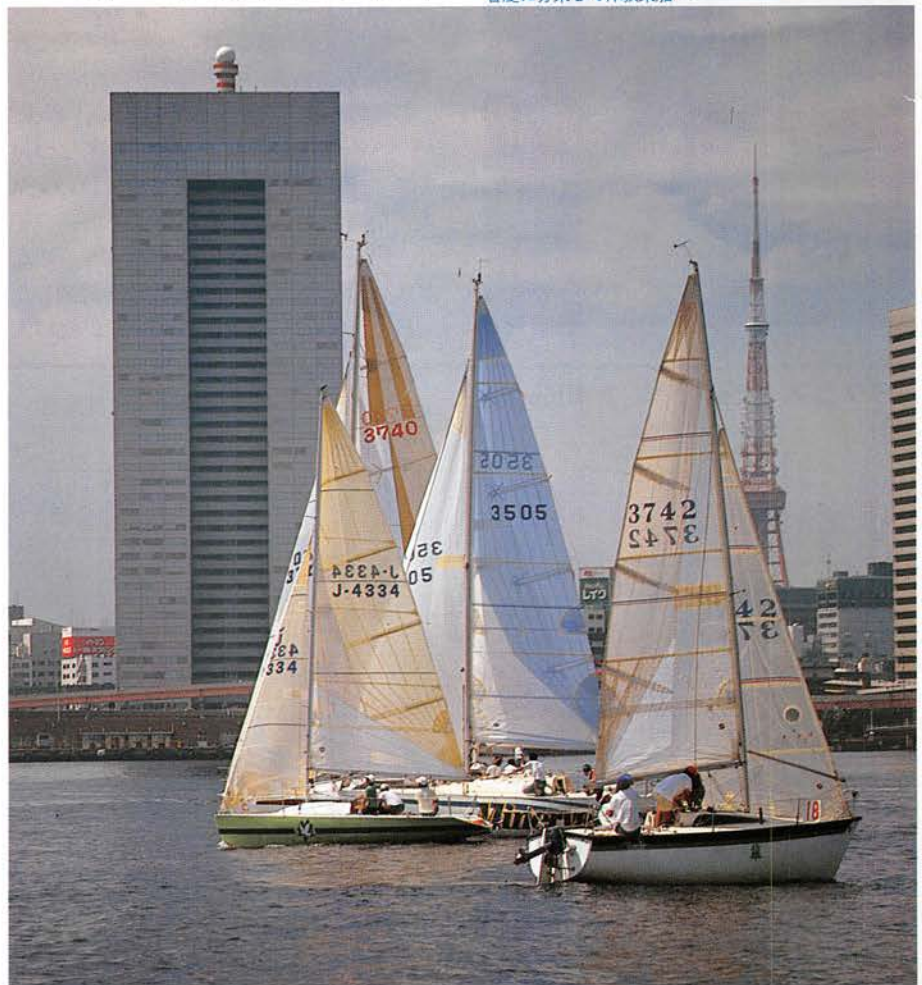
東京フリートキャプテン 内藤恒夫



各艇に分乗して体験乗船へ



ファーストホーム、修正2位に輝いた“風神丸”



速報

石原裕次郎メモリアルヨットレース

今年で4回目を迎える関東支部主催、『石原裕次郎メモリアルヨットレース』が、晴天の8月26日行われた。

コースは油壺沖をスタート。ウェザーマーク→葉山沖マーク→網代崎燈浮標→フィニッシュの16マイル。葉山沖では、『裕次郎灯台』をポートサイドに眺める小



“コンテッサVIII”に乗艇する石原伸晃代議士(右)と良純氏

意気な演出も例年通りだ。参加143艇がC RレーティングのAクラス、レーティングなしのBクラスに分かれて行われた。

ゼネリコ1回ののち、10時15分、121艇の大フリート、Aクラスがスタート、続いて10時25分、Bクラスがスタートを切った。

スタート時の風は2%。ダンゴ状態のフリートはなかなかばらけず、苦労した艇も多かったようである。が、次第に風も上がり、絶好のヨット日和りに。ギンギンのIOR艇、年に一度のレースというファミリー艇、みなそれぞれに夏の一日を楽しんでいた。

結果の方は、Aクラスでは“SLEEPER”が“KARASU”に12秒のきわどい差をつけてファーストホーム。修正でも1位の完全優勝を勝ちとった。また慎太郎会長の子息、伸晃代議士と俳優の良純氏が乗りこんだ“CONTESSA VIII”も修正29位と健闘した。

BクラスではJ-24の“PERO”が他の大

型艇を押さえ着順でも2位、修正1位に輝いた。

レース後には表彰式がサーフ'90三崎会場内シーサイドステージにて行われた。協賛各社より贈られた豪華な賞品が当たる大抽選会、ビンゴゲームなどで大いに盛り上がった後、成績発表、表彰に。Aクラス優勝の“SLEEPER”には英国の高級陶磁器メーカー『エインズレー社』より寄贈頂いた『裕次郎メモリアルカップ』時価400万円が手渡された。



『裕次郎メモリアルカップ』を受け取り大喜びの“SLEEPER”武部喜一オーナー(中央)とクルーの面々

Bクラス 風速4 % 距離16m

スタート 1990年8月26日 10時25分0秒 レース委員長 安岡 信一

SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. m	T. A	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位
4122	PERO	保岩 理夫	J-24	0.00		4 6 12	14772	2	1
1465	MAUPITI	田中 賀信	FRE38	0.00		3 26 34	14873	1	2
3641	LEILANI	中賀 維大	Y30C2	0.00		4 14 48	15288	3	3
3793	月波	田中 賀信	ORCLE T26	0.00		4 17 22	15442	4	4
334	ジュンブライド	有賀 木大	DUFO 34	0.00		4 24 0	15840	5	5
4032	ブルーハ	鈴木 塚三	N-270	0.00		4 27 18	16038	6	6
4091	Dr. FEELGOOD	石坂 益三	ARC-27	0.00		4 29 18	16158	7	7
1580	粒々Ⅲ	坂駒 旦	DEH34	0.00		4 30 8	16208	8	8
3937	MOULIN ROUGE	齊藤 浩一	YAM25ML	0.00		4 44 52	17092	9	9

DNF: SAGAMI-II, エリックス, 月光Ⅲ, ティンカーベル, HIMIKO 3, ダークホース, アルローネ, CAMAROT, ジェロニモ, スタージョン, BIG DEAL V

DSQ: CYGNUS V オープン参加: FOLLOW ME (4260/S. CURRIE/トリマラン/E. T. 3:47:10)

〈レーティングについて〉

実行委員会は、当レースの主旨はIOR/JORレーティングを所持していない、CRのみの所持艇を主体として考えている。そのためBクラスにIOR/JORを所持されている艇の申し込み、また以前所持されていた艇は、Aクラスとした。

またレース委員会とクルーザーレーティング委員会と協議の上、データが多い艇種については、同一レーティングとした。IOR艇については、前年の当レースの成績、関東支部レース、『ジャパンカップ』の成績及び参加等を勘案し、5~3%, 又、メ切り後の申し込み艇に2~1%のプラスアルファを加算した艇もあるが、当レースのハンディキャップとして決定した。尚来年の当レースのハンディキャップも今年の成績等により考慮される予定である。

DSQはリコール艇と、中には網代崎燈浮標(時計廻り)を不通過した艇が多く含まれている。

レース副委員長 初鹿野幸生



石原裕次郎

メモリアルヨットレース 成績表

Aクラス 風速4% 距離16M

スタート 1990年8月26日 10時15分0秒

レース委員長 安岡 信一

SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. m	T. A	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位
355	SLEPER	武部喜一	N/M42	11.00	580	2 52 55	1095	1	1
3800	KARASU	部保雄	TAK40	11.20	576	2 53 7	1171	2	2
3519	LAVIEEN ROSE	斜野橋谷	FAR45	11.90	566	2 53 30	1354	3	3
4379	再見Ⅱ	高橋伸和	YOK30	8.15	634	3 20 17	1873	8	4
3002	SYLPHIDES	浦能秀英	FAR3/4	8.25	632	3 23 38	2106	1 2	5
3825	ルージュ	田沼松栄	YR30Ⅱ	7.80	643	3 26 34	2106	1 3	5
3001	HALF TIME	大平儀見	YOK35	9.10	614	3 20 5	2181	7	7
3561	サエラ		X3/4	8.90	618	3 21 13	2185	9	8
1088	INDEPENDENCE V		YOK30SR	7.80	643	3 29 21	2273	1 6	9
3030	波切大王		FAR53	16.00	518	2 56 50	2322	4	10
3335	織姫	古小川	FRE41	10.50	588	3 16 40	2392	5	11
3360	ELECTRON	高口木	YAM39	9.65	603	3 22 55	2527	10	12
678	倭建	佐々木	DP-38	9.70	602	3 23 10	2558	11	13
3965	AMATORA	小佐々	BRN 40	10.80	583	3 18 35	2587	6	14
3306	RIPPLE Ⅲ	佐藤裕	YOK30R	8.00	638	3 33 50	2622	20	15
4139	NO PLOBREM	内海田	F-35S 5	8.15	634	3 36 22	2838	23	16
3809	写楽	内熟神	YAM34R	7.90	640	3 38 26	2866	25	17
4241	G' NET	戸橋	FNG36	8.45	627	3 35 2	2870	21	18
3896	紫魂	山崎	X-99	8.85	619	3 33 26	2902	19	19
1767	無双		HAYA-36	7.55	649	3 42 44	2980	27	20
2466	MERLUZA	杉田泰一	SWING31	7.40	653	3 44 16	3008	28	21
2960	Q' ROKU 0	田口哲	FAR 12.2	9.45	607	3 32 46	3054	18	22
3610	タートル M	溝増島	DOU-42	10.55	587	3 27 54	3084	15	23
1733	U. F. O	川島本	YAM30SⅡ	6.95	665	3 49 48	3148	32	24
2112	FUJI Ⅲ	藤大木	FRE-45	11.20	576	3 26 41	3185	14	25
3055	SAMOA V	石井原	U-31	7.40	653	3 47 40	3212	30	26
2000	月光 V	井原	FRE41	9.20	612	3 38 4	3292	24	27
3536	絵街人	中野	ELIOTT10	9.85	599	3 35 12	3328	22	28
188	CONTESSA Ⅷ		DOU42	11.00	580	3 31 14	3394	17	29
1978	セレンディビティ V		YOK33R	8.65	623	3 44 56	3528	29	30
4092	Dr. WITCH	野平内	ARC30	6.35	683	4 1 6	3538	38	31
3035	MARTHA	田宏之	WAG-34	8.05	637	3 49 40	3588	31	32
3592	LAHAINA-Ⅲ	藤文	EDV-30	7.35	654	3 54 55	3631	34	33
3501	SONN BLUME	佐藤	YOK31N	7.50	650	3 53 56	3636	33	34
3768	FRENCH KISS	山科	X-402	10.20	593	3 40 36	3748	26	35
3558	MAY BE	小山板	YOK31N	7.60	648	3 56 40	3832	35	36
3387	BASIC	小橋	YOK28	6.90	667	4 3 28	3936	42	37
4262	KASUMI	伊藤	YAM30SⅡ	7.15	660	4 2 0	3960	40	38
3303	AEOLUS	西原	YOK31	7.25	657	4 1 40	3988	39	39
3967	CARIBBEAN-3	浜村	YAM-30S2	7.10	661	4 3 5	4009	41	40
4115	SUN RISE	太田伸	YAM26C	5.95	697	4 13 4	4032	55	41
189	きんばち	森山幸	X-79	6.30	685	4 10 42	4082	51	42
3088	BUMBLE BEE Ⅲ	崎隆	YAM30S	6.90	667	4 6 55	4143	45	43
3510	TRACER	三智久	TAK-30	8.00	638	4 0 32	4224	37	44
319	かまくらⅡ	鈴木一郎	ESP30	7.00	664	4 7 58	4254	47	45
2182	KELONIA	大谷正	YOK33	8.25	632	3 59 36	4264	36	46
1313	PAGO PAGO	本間武	P I O N I A 10	7.25	657	4 8 0	4368	48	47
3228	ALPHA		YOK-32	7.50	650	4 7 20	4440	46	48
3555	おいどん	田健弘	Y-35CR	7.80	643	4 5 44	4456	44	49
4288	WINGS Ⅲ	古田邦	BNT 325	7.40	653	4 9 44	4536	50	50
199	SALMON 3	飯島征四郎	ORY33	6.95	665	4 12 58	4538	54	51
368	赤城	林持修夫	TAK31	7.35	654	4 11 55	4651	52	52
3580	竜王丸	和一	BNT 325	7.35	654	4 12 15	4671	53	53
1115	STAYER	田保修弥	X-372	8.75	621	4 4 54	4758	43	54
1579	しょうがく坊	一禎康昌	YOK-32	7.40	653	4 13 38	4770	56	55
381	八丈 V		HT34	8.25	632	4 8 26	4794	49	56
3877	GUANDALINA		F-305	6.30	685	4 23 46	4866	64	57
3663	EBB TIDE		YOK-28	6.80	670	4 20 0	4880	62	58
2011	SAVAGE		TAK-31	7.50	650	4 14 50	4890	59	59
4311	久星スピリット	中土屋	JAN-V OYAGE	7.65	646	4 14 8	4912	57	60
2862	おおみずなぎどり	北田村	U-34	7.75	644	4 14 40	4976	58	61
4202	ルナ Ⅲ	日向野	TAK-27	6.10	692	4 29 4	5072	67	62
3878	JOJO	中野橋	N-240	5.30	722	4 37 47	5115	74	63
1881	ANGUILLA	市木飛	YAM30S	6.70	673	4 25 14	5146	65	64
4175	VOYAGER Ⅲ	庭島林	EDV30	6.80	670	4 28 28	5388	66	65
3898	AEOLUS	中本	Y30C 2	6.80	670	4 31 14	5554	69	66
667	KAYSEVEN	栗田	ODA45A	9.20	612	4 16 0	5568	60	67
4193	TANGO	山小畑	ARC27	6.45	680	4 34 10	5570	73	68
4069	GUARANTE CINQ PLUS		EDV30	7.00	664	4 30 45	5621	68	69
3715	MISTRAL		EDV30	6.80	670	4 33 36	5696	71	70
4171	御輿	磯部良男	FST 103	8.70	622	4 22 8	5776	63	71
4050	TIME PASSAGE	中高田	YAM26C	5.90	699	4 43 33	5829	78	72
1960	HIPPO	安高福	GS30	6.60	676	4 37 50	5854	75	73
1403	VOLANS Ⅲ	田城	BNT42	9.50	606	4 19 30	5874	61	74
3494	ARC-EN-CIEL Ⅱ	高田	YOK30N	7.30	655	4 39 20	6280	76	75
1044	TELEMATIQUE	高川	JN-34	8.20	633	4 33 30	6282	70	76
4176	ハミングバード V	原藤	OCEAN-390	7.35	654	4 40 15	6351	77	77
3702	SUTEN DHOJI	大齊	ADAMS13M	8.65	623	4 33 42	6454	72	78

DNF: AKIZUKI, ミズナギドリ, GORGON, PUSSY CATS5, 続WILD ZOO, KEI, 楨記郎, COUNTRY-BUM V, SWEET BASIL, マンボウ, TRADE WIND, S CLOUD, 光風, WOOD STOCK, インス, GOOD ONE, ELAMOR II, BANG DIT, CONTESSINA, ASSOCIATE, STAR DUST, BELLSONIYA

DNS: KUVERA III

DSQ: MORE JOY7, DAHRMA, LIBRA, テレスコ, 波勝, NAPOLEON, DANCE OF MAGIC, PEGASUS, TORNADOII, HOLIDAY, SARA, サンビームII, TURUGI, PASSAGE, 奈美, 八熊, THETISIII, 一乗, 梓, 阿久里, ESMELARDA, SHADOW

サムタイムヨットフェスティバル1990

5月27日(日)

琵琶湖の花 スピンの嵐のレースは



"Noah Express"が初優勝

NORC近畿北陸支部 三井祥功

琵琶湖のビッグイベントとして完全に定着した感のある『サムタイムヨットフェスティバル・ビワコ1990』が、今年も盛大に開催された。早いもので今年で第10回を迎え、エントリーも5クラスに243艇を数える一大イベントに成長した。

どんなヨットでも参加できるうえに、独自のレーティングにより、だれにでも勝てるチャンスのあるレースであり、琵琶湖という地の利と多数の賞品も人気のひとつであろう。また大会運営も多くの人達の協力でスムーズなものこの大会の良いところだと思う。

さて多くの大会関係者の願いが通じたのか、大会当日は晴天微風。しかもスタートラインは、フリーになるという運営にとっては最高と言えるコンディションとなった。レースに出るのはこの大会だけという艇や家族のチームなど初心者クルーも多いので、微風のスタートはありがたいコンディションだ。北の風なのでコースはフリーでスタート、柳ヶ崎沖の第1マークを回りア



フィニッシュめざし最後のクロースホルド

ビーム、第2マークからは真上りでフィニッシュとなる。

午前11時スタートが切れ、各艇が一勢にスピナーカーを上げて南に向かった。スタートラインは約1,000m。しかしながら200艇以上の艇が一勢にスタートするのだから大変だ。毎年のことながら、このスタートの混雑の中からいかに抜け出すかが、勝敗を左右する大きなファクターとなる。大型のマストヘッド艇は、マストの高さにものを言わせて、また20ftクラスの艇は小回りの良さで集団を抜け出そうとするが、スピナーカーの屏風が二重、三重となっており、なかなか思うようには走れない。

スタート後約10分、やっと各艇ばらけはじけ、スピナーカーもきれいにはられるようになった。コースとしては第1マークまで直線で行けるがそこは琵琶湖の難しさで、均一に風が吹くことは少ない。中央のコースには昨年の優勝艇“IBIZA”をはじめ30ftクラスのレーサーが目立つ。水深の浅い東よりのコースには20ftクラスの艇が多く走っている。スタートから30分、西よりのコースにブローが入っているようで、西よりにコースを取った艇団が足を伸ばしている。このコースには、テレビ局の取材陣を乗せた39ft“Maruko”が先頭を走っている。トップクラスを走る艇では、それぞれ上を見たり横や後ろに注意しながら走っているが、中国の艇では、ほとんど宴会中の艇あり、食事中の艇ありで、



表彰式は大にざわい!

それぞれレースを楽しんでいる様子だ。

第1レグの中間あたりから風も4~5%とやや強くなり、中間よりやや東にコースを取った“IBIZA”がトップ。約200m後方を(YAM-R30II)の“Noah Express”が追って行きそのまの順位で第1・第2マークを回りフィニッシュとなったが、レーティングで“Noah Express”が逆転。クラス優勝と総合優勝に輝いた。またクラスIIでは、最終のクロースホルドで良い走りを見せた“CREEK V”がミニトンレーサーの意地でトップとなり、クラスIIIでは“PAVO”(PAO-9)、クラスIVでは“MARIE”(YAM-21C)が優勝した。そして、オールドボートのクラスZでは“BOYC2”(YAM-21CB)がクラス2連覇、マルチハルのクラスMは“SAMIT”(STR-24)が優勝した。

また盛大に行われた表彰レセプションでは各クラスの上位の他にも多数の賞品が贈られ大に盛り上がった。又、エントリーフィーの一部がニッポンチャレンジに贈られ秋山レース委員長からクリス・ディクソン氏に直接手渡された。



あいさつにたつクリス・ディクソン

今月の表紙：先月ハワイで行われた『ケンウッドカップ』で艇別総合優勝に輝いた“MATENROW”。下マーク回航前の1シーン。(撮影/添畑 薫)

オースセリングの予感。



ヨット・モーターボート総合保険

東京海上火災保険株式会社
住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク(フリーダイヤル0120-024-410)

冒険小説のような一日。



※11月15日～18日に開催されるエンボムカップに正式採用されることになりました。

セイルが風をはらむ、艇が滑り出す。物語の始まりだ。
波をこえるごとに、艇がヒールを繰り返すごとに、
スリリングな事件に遭遇したかのように胸が高鳴る。
見上げると、抜けるような青空。
風のかたちが見えるような雲のなかで。
これは、まだ見ない海の魅力という、
黄金の島を求めめる航海だ。
YAMAHA-34Sとの一日は、
いつもエキサイティングな期待に包まれている。



N-E-W YAMAHA-34s

●全長10.30m ●水線長8.50m ●全幅3.50m ●吃水1.97m ●完成重量4,700kg ●バラスト重量1,800kg ●全セイル面積53.82㎡ ●バース数7
●呼称最大馬力18ps ●定員12名(平水) ●航行区域 遠洋
※写真はオプションを含みます。
■平水限定沿海標準価格例 ¥13,413,200
※2GM・20B付。法定安全備品等が含まれています。
オプション・船舶検査費用・運賃・消費税は含まれていません。

FOR GOOD MARINE LIFE! 安全がマリンスポーツの基本です。

■天気予報を確認して、無理のないセーリングを。■法規やマナーを守りましょう。■立入禁止水域や船舶航行の頻繁な水域は避けましょう。■点検・整備を忘れずに。■乗船前に、免許と法定備品の確認を。■漁業者に迷惑をかけないようにしましょう。
●カタログご希望の方は、艇名・雑誌名を明記のうえ、宣伝課まで。●ヤマハ発動機株式会社 千438 静岡県磐田市新貝2500

ヤマハ製品についてのお問い合わせは、下記までどうぞ。

北海道ヤマハ株式会社	☎011-612-1060	ヤマハ関西株式会社	☎06-535-1671
ヤマハ東北株式会社	☎022-235-1031	ヤマハ中国株式会社	☎082-285-4911
ヤマハ東京株式会社	☎03-444-9971	ヤマハ四国株式会社	☎0878-67-3800
ヤマハ中部株式会社	☎052-913-2121	ヤマハ九州株式会社	☎092-472-5261